

博士前期課程

1. 目的

近年、科学技術の発展はめざましく、医療分野においても先端技術の高度化、関連職種の専門分化が進展し、保健医療を取り巻く社会情勢は大きく変化した。特に、高齢社会の到来に伴って疾病構造が変化した結果、病気や障害を抱えながら地域社会の中で日常生活を営む人々が急増し、在宅看護や介護など、保健・福祉・医療にかかる看護ニーズが拡大し、多様化してきている。また、心身症や自殺者の増加など、心のケアを必要とする健康問題への支援が求められている。

とりわけ島根県は老人人口比率が高く、わが国の高齢社会の抱える問題を先行して体験していることに加え過疎化が進行する離島や中山間地域を抱えているところから、住民に豊かな保健・医療・福祉サービスを提供するためのシステムを模索している現状にある。

こうした健康問題の社会的・地域的要請に応えていくためには、高度な看護実践能力を持ち、保健・医療・福祉の有機的連携を調整する役割を果たせる看護専門職者と看護学研究者の育成が必須である。

本研究科は、豊かな人間性と幅広い視野をもち、科学的な視点と看護学の理論に支えられた卓越した看護実践能力と、創造的な教育・研究能力を持つ人材を育成し、看護学の発展と地域の保健・医療・福祉の向上に寄与することを目的とする。

2. 目標

各種医療機関、保健・福祉施設、教育・研究機関等で活躍する看護学分野における専門性の高い人材の育成を行う。

1) 高度な専門職業人の育成

看護の対象となる人々の QOL の向上や看護ケアの質の向上を図るために、深い人間理解と高度で専門的な知識と技術を有し、専門領域の分野で卓越した看護を提供できる能力を持つ人材を育成する。広い視野で保健・医療・福祉の資源を有効に活用し、一般看護職者のケアの質を向上させるための教育的機能を果たすとともに、専門分野の看護実践の場における研究活動を推進し、看護学の発展に寄与することのできる人材を育成する。

2) 教育者・研究者の育成

学部教育で修得した専門的知識と技術を基盤にさらに学識を深め、看護学の体系化と看護技術の開発を積極的に推進していく能力を育成する。看護学の最先端の理論と知識、方法を学び、急速に進展している看護学の高等教育を担う人材を育成するとともに、博士後期課程へ進学し研究者として自立できる能力を有する人材を育成する。

3. 看護学専攻の構成

看護援助学コース、看護管理学コース、地域・在宅看護学コース、母子看護学コース、成人（急性・慢性）看護学コース、高齢者看護学コース、老人看護 CNS コースの 7 コースで構成されている。

1) 看護援助学コース

ヒューマンケアと看護の質の向上という観点から看護援助に関する理解を深め、あらゆる看護領域の実践の基盤となる対人関係および看護援助技術に関する理論・技術・教育方法について教育・研究を行う。

2) 看護管理学コース

社会のヘルス・ニーズに対応して、最良の看護を組織的に提供し、計画・組織化・支持・調整・統制といった諸活動を展開するために必要な看護管理の理論と方法を修得し、看護管理実践における看護管理技術の検証と更なる開発をめざして教育・研究を行う。

このコースを修了して修士号を取得し、かつ、日本看護協会認定看護管理者規則第 19 条に定める実務経験を有する者は、認定看護管理者認定審査の受験資格を得られる。

3) 地域・在宅看護学コース

地域の地理的、文化的、社会的環境と密接に関係する人々の健康的な生活を維持するため、個人や家族、学校、職域および集団を対象として、保健・医療・福祉の効果的・効率的連携を可能にする看護と方策について教育・研究を行う。また、一般住民や在宅療養者の生活の質向上に向けて、専門的看護の実践における教育・研究を行う。

4) 母子看護学コース

ライフサイクルと生涯発達の視点に立って、母子関係や家族関係に関連する理論を学び、様々な健康状態にある小児の特性、妊産婦や子どもの健康問題に関する最新の知見や母子保健施策を通して、母子や家族の健全な発達を支援する方策について教育・研究を行う。

5) 成人（急性・慢性）看護学コース

成人期にある患者と家族を対象とし、発達的な特徴を踏まえて健康障害や健康レベルの特徴についての理解を深め、看護の課題を明らかにするとともに、変化する医療や生活環境に対応した看護援助のあり方や方策について教育・研究を行う。

6) 高齢者看護学コース

加齢による変化や疾病・障害を持つ高齢者の健康上の問題と日常生活との関係をアセスメントし、健康的な老年期の生活を維持できる看護の理論と方法について学び、高齢者や家族へのケアをコーディネートすることのできるマネジメント能力やケア開発のための教育・研究を行う。

7) 老人看護CNSコース

老人看護分野において、総合的な判断力と組織的な問題解決力を持って活動し、老人看護実践の発展に貢献できる専門看護師（CNS）の育成を目指す。

4. 履修方法

老人看護 CNS コース専攻者以外は、下記の修了要件を満たすよう、別紙「履修モデル」より必要となる科目を履修する。

区分		履修科目	単位数
必修	専門必修科目	専攻するコースの特論 : 2 単位 専攻するコースの演習 : 2 単位 看護学特別研究 : 8 単位	12 単位
選択	専門必修科目	専攻するコース以外の特論及び 専門選択科目	10 単位以上
	基盤科目		8 単位以上
		合計	30 単位以上

※ 老人看護CNSコース

老人看護 CNS コースは、専門看護師教育課程（老年看護）として認定されている。

下記の修了要件を満たすよう、別紙「履修モデル」より老人看護 CNS 受験資格に必要となる科目を履修する。

区分		履修科目	単位数
必修	専門必修科目	高齢者看護学特論 : 2 単位 高齢者看護学演習 : 2 単位 高齢者看護学実習 : 6 単位 看護学課題研究 : 4 単位	14 単位
選択	専門必修科目	専攻するコース以外の特論及び 専門選択科目	14 単位以上
	基盤科目		8 単位以上
		合計	36 単位以上

5. 履修モデル

授業科目名	開講年次	単位数			看護援助学コース	看護管理学コース	地域・在宅看護学コース	母子看護学コース	成人(急性・慢性)看護学コース	高齢者看護学コース	老人看護CNSコース
		講義	演習	実習							
専門必修科目	看護援助学特論	1	2		●						
	看護援助学演習	1		2	●						
	看護管理学特論	1	2			●					☆
	看護管理学演習	1		2		●					
	地域・在宅看護学特論	1	2				●				
	地域・在宅看護学演習	1		2			●				
	母子看護学特論	1	2					●			
	母子看護学演習	1		2				●			☆
	成人(急性・慢性)看護学特論	1	2						●		4科目
	成人(急性・慢性)看護学演習	1		2					●		
	高齢者看護学特論	1	2							●	8単位
	高齢者看護学演習	1		2					●	●	
	高齢者看護学実習	1・2		6						●	以上
	看護学課題研究	2		4						●	
	看護学特別研究	2		8	●	●	●	●	●	●	
専門選択科目	リスクマネジメント論	1・2	2			◎					
	看護人材育成論	1・2	2			◎			○		☆
	看護情報管理論	1・2	2			◎					
	保健医療福祉政策論	1・2	2			◎	○			●	
	母子フィジカルアセスメント方法論	1・2	2					○			
	重症者フィジカルアセスメント方法論	1・2	2						○		●
	臨床薬理・薬剤学	1・2	2						○		○
	高齢者看護実践論	1・2	2						○	●	
	高齢者看護援助論	1・2	2							●	
	認知症看護論	1・2	2						○	●	
基盤科目	高齢者在宅ケアシステム論	1・2	2						○	●	
	家族看護援助論	1・2	2							●	
	看護理論	1・2	2							☆	
	看護倫理	1・2	2							☆	
	コンサルテーション論	1・2	2							☆	
	看護研究方法演習	1・2		2						☆	

●必修 ○履修することが望ましい科目 ◎認定看護管理者認定審査受験者必修 ☆CNS共通選択科目

(備考) 基盤科目は、8単位以上、専門必修科目は、各コースの特論2単位及び演習2単位並びに看護学特別研究8単位(CNSコースは課題研究4単位)、専攻するコース以外の専門必修科目の特論及び専門選択科目から10単位以上、合計30単位以上を修得しなければならない。なお、老人看護CNSコースの履修については、指導教員の指導を受けること。

6. 修了の要件

本課程に原則として 2 年以上在学し、所定の単位（30 単位以上、老人看護 CNS コースにあっては 36 単位以上）を修得し、かつ、必要な研究指導を受けて修士論文を提出し、その審査及び最終試験に合格することとする。

7. 学位授与

修士（看護学）

8. 長期履修制度と修業年限

修業年限は 2 年であるが、社会人学生の就学を支援するために、島根大学学則第 29 条に則り、長期履修制度を導入する。

申請により当該制度の利用許可を得た学生は、修業年限の 2 倍の年限まで修業することができる。

9. 入学料・授業料の免除及び徴収猶予制度

入学料については、経済的理由によって納付が困難であり、かつ学業優秀であると認められる者、あるいは、特別の事情（入学前 1 年以内に、入学する者の学資負担者が死亡、または、入学する者もしくは学資負担者が風水害等の被害を受けた場合等）により納付が困難であると認められる者に対して、その全額または半額が免除される制度及び徴収を猶予される制度がある。授業料については、全額または半額が免除される制度がある。

10. 奨学金制度

日本学生支援機構奨学金

学業成績、人物とも優れた学生で、経済的理由により修学困難な者には、選考のうえ奨学金が貸与される。(平成 28 年度貸与月額 第一種:無利子 50,000 円または 88,000 円、第二種:有利子 50,000 円・80,000 円・100,000 円・130,000 円・150,000 円)

11. 学生教育研究災害傷害保険、学研災付帶賠償責任保険

教育研究活動中に万一事故等により、身体等に損害を被った場合あるいは他人に対する賠償責任が発生した場合に保険金を支払う制度である。財団法人日本国際教育支援協会が実施し、学生全員が加入する保険である。

12. 教育課程表: 平成28年度以降入学者用

(1) 看護援助学コース、看護管理学コース、地域・在宅看護学コース、母子看護学コース、成人(急性・慢性)看護学コース、高齢者看護学コース

授業科目等		開講年次	単位数		摘要
			講義	演習	
専門必修科目	看護援助学特論	1	2		看護援助学コース必修
	看護援助学演習	1		2	
	看護管理学特論	1	2		看護管理学コース必修
	看護管理学演習	1		2	
	地域・在宅看護学特論	1	2		地域・在宅看護学コース必修
	地域・在宅看護学演習	1		2	
	母子看護学特論	1	2		母子看護学コース必修
	母子看護学演習	1		2	
	成人(急性・慢性)看護学特論	1	2		成人(急性・慢性)看護学コース必修
	成人(急性・慢性)看護学演習	1		2	
専門選択科目	高齢者看護学特論	1	2		高齢者看護学コース必修
	高齢者看護学演習	1		2	
	看護学特別研究	2		8	全コース必修
	リスクマネジメント論	1・2	2		
	看護人材育成論	1・2	2		
	看護情報管理論	1・2	2		
	保健医療福祉政策論	1・2	2		
	母子フィジカルアセスメント方法論	1・2	2		
	重症者フィジカルアセスメント方法論	1・2	2		
	臨床薬理・薬剤学	1・2	2		
基盤科目	高齢者看護実践論	1・2	2		
	高齢者看護援助論	1・2	2		
	認知症看護論	1・2	2		
	高齢者在宅ケアシステム論	1・2	2		
	家族看護援助論	1・2	2		
	看護理論	1・2	2		
	看護倫理	1・2	2		
	コンサルテーション論	1・2	2		
	看護研究方法演習	1・2		2	

(備考)

基盤科目は、8単位以上、専門必修科目は、各コースの特論2単位及び演習2単位並びに看護学特別研究8単位の計12単位、専攻するコース以外の専門必修科目の特論及び専門選択科目から10単位以上、合計30単位以上を修得しなければならない。

(2) 老人看護CNSコース

授業科目等		必修	選択必修	開講年次	単位数		
					講義	演習	実習
専門必修科目	看護援助学特論	○	○	1	2		
	看護管理学特論			1	2		
	地域・在宅看護学特論			1	2		
	母子看護学特論			1	2		
	成人（急性・慢性）看護学特論			1	2		
	高齢者看護学特論			1	2		
	高齢者看護学演習			1		2	
	高齢者看護学実習			1・2			6
専門選択科目	看護学課題研究	○	○	2		4	
	リスクマネジメント論			1・2	2		
	看護人材育成論			1・2	2		
	看護情報管理論			1・2	2		
	保健医療福祉政策論			1・2	2		
	母子フィジカルアセスメント方法論			1・2	2		
	重症者フィジカルアセスメント方法論			1・2	2		
	臨床薬理・薬剤学			1・2	2		
	高齢者看護実践論			1・2	2		
	高齢者看護援助論			1・2	2		
基盤科目	認知症看護論	○	○	1・2	2		
	高齢者在宅ケアシステム論			1・2	2		
	家族看護援助論			1・2	2		
	看護理論			1・2	2		
	看護倫理			1・2	2		
	コンサルテーション論	○	○	1・2	2		
	看護研究方法演習			1・2		2	
<p>(備考)</p> <p>必修科目28単位及び選択必修科目8単位以上、合計36単位以上を修得しなければならない。</p>							

附 則

- この規則は、平成28年4月1日から施行する。
- 平成27年度以前の入学者（当該入学者と同学年に転入学、再入学する者を含む。）の履修については、この規則による改正後の島根大学大学院医学系研究科規則別表第3の規定にかかわらず、なお従前の例による。

『CNS 認定科目との対比表』

専門看護師認定に必要な共通科目

CNS 共通科目	本大学院該当科目	履修単位	CNS 認定単位
看護教育論	看護人材育成論	2	2
看護管理論	看護管理学特論	2	2
看護理論	看護理論	2	2
看護研究	看護研究方法演習	2	2
コンサルテーション論	コンサルテーション論	2	2
看護倫理	看護倫理	2	2
看護政策論			

専門看護師認定に必要な専門科目【老年看護】

	CNS 科目	本大学院該当科目	履修単位	CNS 認定単位
専攻分野 共通科目	1. 老年健康生活評価に関する科目	高齢者看護学特論	2	2
		重症者フィジカルアセスメント方法論	2	1
	2. 老年と家族の看護に関する科目	高齢者看護実践論	2	1
		家族看護援助論	2	1
	3. 老年サポートシステムに関する科目	高齢者在宅ケアシステム論	2	2
専攻分野 専門科目	4. 老年保健福祉政策に関する科目	保健医療福祉政策論	2	1
	1. 病院・施設における老年看護に関する科目	高齢者看護援助論	2	2
実習科目	2. 認知症老年看護に関する科目	認知症看護論	2	2
	実習	高齢者看護学実習	6	6

13. 教育課程表: 平成25・26・27年度入学者用

(1) 看護援助学コース、看護管理学コース、母子看護学コース、成人看護学コース、
地域在宅看護学コース、高齢者看護学コース

授業科目等		開講年次	単位数		摘要
			講義	演習	
専門必修科目	看護援助学特論	1	2		看護援助学コース必修
	看護援助学演習	1	2		
	看護管理学特論	1	2		看護管理学コース必修
	看護管理学演習	1	2		
	母子看護学特論	1	2		母子看護学コース必修
	母子看護学演習	1	2		
	成人看護学特論	1	2		成人看護学コース必修
	成人看護学演習	1	2		
	地域在宅看護学特論	1	2		地域在宅看護学コース必修
	地域在宅看護学演習	1	2		
専門選択科目	高齢者看護学特論	1	2		高齢者看護学コース必修
	高齢者看護学演習	1	2		
	看護学特別研究	2		8	全コース必修
	リスクマネジメント論	1・2	2		
	看護人材育成論	1・2	2		
	看護情報管理論	1・2	2		
	保健医療福祉政策論	1・2	2		
	母子フィジカルアセスメント方法論	1・2	2		
	重症者フィジカルアセスメント方法論	1・2	2		
	臨床薬理・薬剤学	1・2	2		
基盤科目	* 高齢者看護実践論	1・2	2		
	* 高齢者看護援助論	1・2	2		
	認知症看護論	1・2	2		
	* 高齢者在宅ケアシステム論	1・2	2		
	グリーフ看護論	1・2	2		
	家族看護援助論	1・2	2		
	* 看護理論	1・2	2		
	看護倫理	1・2	2		
	コンサルテーション論	1・2	2		
	看護研究方法演習	1・2		2	

(備考)

基盤科目は、8単位以上、専門必修科目は、各コースの特論2単位及び演習2単位並びに看護学特別研究8単位の計12単位、専攻するコース以外の専門必修科目の特論及び専門選択科目から10単位以上、合計30単位以上を修得しなければならない。

(2) 老人看護CNSコース

授業科目等		必修	選択必修	開講年次	単位数		
					講義	演習	実習
専門必修科目	看護援助学特論	○	○	1	2		
	看護管理学特論			1	2		
	母子看護学特論			1	2		
	成人看護学特論			1	2		
	地域在宅看護学特論			1	2		
	高齢者看護学特論			1	2		
	高齢者看護学演習			1		2	
	高齢者看護学実習			1・2			6
専門選択科目	看護学課題研究	○	○	2		4	
	リスクマネジメント論			1・2	2		
	看護人材育成論			1・2	2		
	看護情報管理論			1・2	2		
	保健医療福祉政策論			1・2	2		
	母子フィジカルアセスメント方法論			1・2	2		
	重症者フィジカルアセスメント方法論			1・2	2		
	臨床薬理・薬剤学			1・2	2		
	高齢者看護実践論			1・2	2		
	高齢者看護援助論			1・2	2		
基盤科目	認知症看護論	○	○	1・2	2		
	高齢者在宅ケアシステム論			1・2	2		
	グリーフ看護論			1・2	2		
	家族看護援助論			1・2	2		
	看護理論			1・2	2		
	看護倫理	○	○	1・2	2		
	コンサルテーション論			1・2	2		
	看護研究方法演習			1・2		2	
<p>(備考)</p> <p>必修科目28単位及び選択必修科目8単位以上、合計36単位以上を修得しなければならない。</p>							

附 則

- 1 この規則は、平成23年4月1日から施行する。
- 2 平成22年度以前の入学者（当該入学者と同学年に転入学、再入学する者を含む。）の履修については、この規則による改正後の島根大学大学院医学系研究科規則別表第3の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 3 前項の規定によりなお従前の例によることとされる平成22年度以前に入学した者に係る授業科目には、改正後の島根大学大学院医学系研究科規則別表第3に規定する*印を付した授業科目を加えることができる。
- 4 前項の規定に基づき履修した授業科目について修得した単位は、島根大学大学院医学系研究科規則第11条第2項に規定する単位としては認定しないものとする。

14. 平成29年度:大学院授業科目担当者一覧

区分	授業科目	担当教員 ○: 責任者
看護援助学コース 専門必修科目	看護援助学特論	不開講
	看護援助学演習	不開講
看護管理学コース 専門必修科目	看護管理学特論	○内田・草刈(嘱託)
	看護管理学演習	○津本・内田・小林・福間・宮本
地域・在宅看護学コース 専門必修科目	地域・在宅看護学特論	○小笠・岡本(嘱託)・神田・谷口
	地域・在宅看護学演習	○小笠
母子看護学コース 専門必修科目	母子看護学特論	○福田・秋鹿・松浦
	母子看護学演習	○福田・秋鹿
成人(急性・慢性)看護学コース 専門必修科目	成人(成人・慢性)看護学特論	○矢田・宮下(嘱託)
	成人(成人・慢性)看護学演習	○矢田・橋本・森山
高齢者看護学コース 専門必修科目	高齢者看護学特論	○原
	高齢者看護学演習	○原・加藤
老人看護 CNS コース 専門必修科目	高齢者看護学実習	○原・加藤
	看護学課題研究	○原
専門選択科目	リスクマネジメント論	○内田・嶋森(嘱託)
	看護人材育成論	○津本・任(嘱託)
	看護情報管理論	○津本・石垣(嘱託)・岩田(学内)
	保健医療福祉政策論	○小笠・岸(嘱託)・牧野(嘱託)・馬庭(嘱託)
	母子フィジカルアセスメント方法論	○福田・秋鹿・他5名(学内)
	重症者フィジカルアセスメント方法論	○橋本・森山
	臨床薬理・薬剤学	○小林・直良(学内)
	高齢者看護実践論	○原・加藤・泉(嘱託)
	高齢者看護援助論	○原・加藤・吉岡(嘱託)・塩川(嘱託)
	認知症看護論	○原・浦上(嘱託)・吉岡(嘱託)
基盤科目	高齢者在宅ケアシステム論	○原・谷垣(嘱託)・高山(嘱託)・三輪(嘱託)
	家族看護援助論	○矢田・鈴木(嘱託)
	看護理論	○福間・津本・内田・長田(嘱託)
	看護倫理	○内田・清水(嘱託)
	コンサルテーション論	○内田・宇佐美(嘱託)・長田(嘱託)・鶴屋(嘱託)
看護研究方法演習		○津本・小林・橋本・内田・小笠・福間・秋鹿
看護学特別研究		(主指導教員) 内田・津本・小林・福田・矢田・ 橋本・小笠・原・福間 (副指導教員) 秋鹿

科 目 解 說

看護管理学特論

単位数：2 単位

内田宏美：基礎看護学講座教授

草刈淳子：元愛知県立看護大学学長

1. 科目の教育方針

看護専門職には、社会のヘルスニーズに対して看護の仕事の仕組みを自ら変革し、創造していく能力、保健医療福祉等の関連サービスに携わる人々と連携・協働して活動する実践能力が求められる。質の高い看護を実現するためには、組織やチームの中でメンバーを巻き込んでそれを具現化していくためのマネジメントの機能が働かなければならぬ。組織やチームの看護活動をマネジメントする能力は、看護管理者のみならず、CNS や大学院修了者などの高度看護実践者に必要不可欠な能力として期待されている。

看護管理における課題の解決にあたっては、保健医療そのものの知識のみならず、心理学、教育学、社会学、経営学などの多岐にわたる学問領域の知見と成果を活用することが求められる。看護に関連する保健医療システムの現状と問題点の特性を理解した上で、関連する諸理論の枠組みを活用して看護管理上の問題を批判的に分析し、解決していくための基礎的能力の修得を授業の柱とする。

2. 教育目標

- 1) 看護管理学の歴史と背景を理解し、今日の保健医療福祉システムの中での看護管理の位置づけと課題を展望できる。
- 2) 組織管理に関する諸理論を活用して、看護実践・教育・研究の場における諸現象を看護管理の視点で批判的に分析することができる。
- 3) 看護マネジメントに関する現実的な問題に対して、原因を分析し、具体的かつ効果的な解決策を計画・実行・評価する試みを通して、看護管理の問題解決過程の方法を習得する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

- 1) 基本テキストを熟読し、自ら文献検討を行い、問題意識を持って授業に臨む。
- 2) 組織論・リーダーシップ論・変革理論に関する文献を批判的に考察しつつ講読し、プレゼンテーションとディスカッションにより、看護管理の課題を深く探求する。
- 3) 看護管理における発生型問題に焦点を当て、理論を手掛かりとして問題点を分析し、解決のための戦略を検討する。

【評価】 レジュメ、発表、レポートの緻密さ・的確さ・論理性等により総合的に判断する。

4. テキスト

《講読テキスト》

- 1) 大串正樹『ナレッジマネジメント 創造的な看護管理のための 12 章』医学書院、2007
《基本的テキスト》…(貸し出し可)
- 1) 井部俊子・中西睦子監修『看護管理学習テキスト①-⑦』日本看護協会出版会
- 2) 内野崇『変革のマネジメント』生産性出版、2006
- 3) オーラ・リー・ストリックランド他：看護アウトカムの測定、エセビア・ジャパン、2006
- 4) 川島みどり・草刈淳子他監修：日本の看護のあゆみ 歴史をつくるあなたへ、日本看護協会出版、2008

5. 教育内容

※ 前期(火) 18:00～19:30

回	月/日	内 容	講師
1	4/18	I. 看護サービス・マネジメント論 ・看護サービスという考え方・看護サービス提供プロセス	内田
2	4/25	I. 看護サービス・マネジメント論 ・看護サービスの標準化と看護の質保証、プロセス・アウトカム評価	内田
3	5/9	IV. 看護組織論 ・集団と組織、組織論の系譜、官僚制の特徴と逆機能	内田
4	5/19(金) 17:00-18:30	*看護管理の視点、考え方 (※ 後掲の参考図書を購読して受講すること)	草刈
5	5/20(土) 10:00-14:30	II. 看護管理プロセスと問題解決の技法 ・発生型問題の解決手法(演習)	
6	5/23	III. 看護専門職と看護管理の歴史的考察 ・専門職とは何か・近代看護と看護専門職	
7	5/23	IV. 看護組織論 ・近代組織論・ネットワーク組織論	内田
8	5/30	II. 看護管理プロセスと問題解決の技法 ・発生型問題の解決手法(演習)	内田
9	6/6	IV. 看護組織論 ・医療組織の特徴、専門職支配と権威勾配	内田
10	6/13	II. 看護管理プロセスと問題解決の技法 ・発生型問題の解決手法(演習)	内田
11	6/20	IV. 看護組織論 ・効果的な看護マネジメントのための組織化・協働とチーム・マネジメント	内田
12	6/27	V. 看護管理者論 ・リーダーシップ理論の系譜・看護組織におけるリーダーシップ	内田
13	7/4	V. 看護管理者論 ・変革理論・看護組織の文化風土を変革する	内田
14	7/11	V. 看護管理者論: 変革理論と組織変革	内田
15	7/18	V. 看護管理者論: リーダーシップと組織変革	内田
		まとめ課題レポート 〆切 7/25 ・看護管理における問題解決過程の展開と評価 ⇒実践を評価し、次の課題を明確化し、実践を方向付ける	内田

【参考図書】: 草刈先生の授業までに熟読しておくこと。

- 1) 沢田允茂著、考え方の論理、講談社学術文庫 45、1971 (2007で57刷)
- 2) 瀧本哲史著、武器としての決断思考、星海社、2011 (5刷)
- 3) 稲垣佳世子、波多野共著、人はいかに学ぶか、中公新書、907、1989
- 4) 久垣啓一著、仕事力を高める方法は図が全て教えてくれる、PHP研究所、2003
- 5) 日野原重明、チーム医療における看護師の新しい役割、p161-171
(井村裕夫著、医と人間、岩波新書、2015)
- 6) 小林未希著、ルポ 看護の質、岩波新書 1614、2016

看護管理学演習

単位数：2単位

津本 優子：基礎看護学講座教授
内田 宏美：基礎看護学講座教授
小林 裕太：特任教授
福間 美紀：基礎看護学講座准教授
宮本まゆみ：基礎看護学講座講師

1. 科目の教育方針

看護管理における活動を、理論的且つ実践的に進めていくために必要な知識・技術の修得を目指す。そのための基本となる、主体的研究態度と研究手法を身につける。

2. 教育目標

- 1) 看護管理学領域における課題を多面的に捉える。
- 2) 自己の関心領域の研究の現状と課題を的確にとらえ、自らが取り組むべきオリジナルな研究テーマを見出せる。
- 3) 看護管理に関する課題に研究的視点で取り組み、問題解決のための研究的アプローチの手法を修得する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

- 1) プレゼンテーションとディスカッションを基本的な学習スタイルとする。
- 2) 修士論文のテーマに関連した分野を中心に検討し、研究の取り組みと連動させて学習を深める。
 - (1)研究倫理審査の申請に向けて研究デザインをまとめる。
 - (2)1月の論文提出に向けて、年内に基本的な準備を終えることを目標とする。

【評価】

- ・レジュメ、プレゼンテーションの緻密さ、的確さ、論理性、参加度等によりに総合的に判断する。

4. 参考文献(その他、授業の中で隨時紹介する)

- 1) 井部俊子・中西睦子監修：看護管理学習テキスト ⑧看護管理学研究
- 2) 同 ⑨看護管理学研究資料
- 3) APA・江藤裕之他訳：APA論文作成マニュアル、医学書院、2004

5. 教育内容

火曜 (16:30~19:30)

回	月/日	内 容	講師
1・2	7/27 (木)	I. 研究動機の明確化：文献検討の方向付け	津本・内田 小林・福間・宮本
3・4	9/26	II. 看護管理の研究領域と課題の検討 ：関心テーマに沿った文献検討	津本・内田 小林・福間・宮本
5・6	10/3	II. 看護管理の研究領域と課題の検討 ：関心テーマに沿った文献検討	津本・内田 小林・福間・宮本
7・8	10/13 (金)	II. 看護管理の研究領域と課題の検討 ：2年生の研究成果中間報告会に参加し研究プロセスを イメージする。	津本・内田 小林・福間・宮本
9・10	10/17	II. 看護管理の研究領域と課題の検討 ：関心テーマに沿った文献検討	津本・内田 小林・福間・宮本
11・12	10/24	II. 看護管理の研究領域と課題の検討 ：関心テーマに沿った文献検討	津本・内田 小林・福間・宮本
13・14	10/31	II. 看護管理の研究領域と課題の検討 ：関心テーマに沿った文献検討	津本・内田 小林・福間・宮本
15・16	11/7	II. 看護管理の研究領域と課題の検討 ：関心テーマに沿った文献検討	津本・内田 小林・福間・宮本
17・18	11/14	II. 看護管理の研究領域と課題の検討 ：関心テーマに沿った文献検討	津本・内田 小林・福間・宮本
19・20	11/21	II. 看護管理の研究領域と課題の検討 ：関心テーマに沿った文献検討	津本・内田 小林・福間・宮本
21・22	12/5	III. 文献検討のまとめと研究テーマの明確化 ：研究の文献的背景について整理した結果を発表 ⇒修士論文として取り組む研究テーマの明確化 ⇒研究の目的・意義の明確化 ⇒研究デザイン・研究方法の決定	津本・内田 小林・福間・宮本
23・24	12/19	IV. 研究計画書の作成と検討 ：調査内容・分析方法の明確化と妥当性の検討	津本・内田 小林・福間・宮本
25・26	1/9	IV. 研究計画書の作成と検討 ：研究背景、目的、意義、方法の明文化	津本・内田 小林・福間・宮本
27・28	1/23	IV. 研究計画書の作成と検討 ：研究計画書全体の提示、プレテスト等の実施	津本・内田 小林・福間・宮本
29・30	2/6	IV. 研究計画書の作成と検討 ：研究計画最終点検、看護研究倫理委員会申請の準備	津本・内田 小林・福間・宮本
		※ 2年生の修士論文発表会(2月上旬)に参加 ：研究プロセスと修士論文作成のイメージ化を図る。 ※研究計画の中間発表会(3月上旬) ⇒看護研究倫理委員会に申請(2/20or3/20 締切)	

地域・在宅看護学特論

単位数：2単位

小笛美子：地域・老年看護学講座 教授

岡本玲子：大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻 教授

神田秀幸：島根大学医学科環境保健医学講座 教授

谷口栄作：島根大学医学科地域医療支援学 教授

1.科目の教育方針

地域で暮らす人々の生活を支えるために地域看護の歴史的変遷や地域看護の理論を学び、地域で生活する個人、家族、集団、組織の健康課題を理解する。特に、生活弱者、健康弱者の健康課題とその支援方法について事例を通して学ぶ。これらを踏まえ、地域看護の実践に必要な基礎的知識、研究方法について学ぶ。

2.教育目標

- 1) 地域看護に関する基本的概念や理論について理解する。
- 2) 地域看護が展開されるさまざまな場における地域保健活動も視野において、地域で生活する人々の健康づくりと保健行動を支援するための知識・技術を習得する。
- 3) 個人家族、集団、組織の健康レベル向上の課題を理解し、効果的な看護支援方法を学ぶ。

3.教育の方法、進め方、評価等

【進め方】

講義、学生によるプレゼンテーションと討議を中心に授業を進める。

受け身ではなく積極的に学ぶこと。

【評価】

授業への出席、レポート、討議への参加から総合的に評価を行う。

4.使用テキスト、参考文献等

テキストは特に指定せず、参考文献等を適宜紹介する。

5. 教育内容

回	月 日	内 容	講師
1	4月 13日	地域看護学の歴史	小 笹
2	4月 20日	地域で生活を営む個人家族・集団・組織の健康と保健行動(1)	小 笹
3	4月 27日	地域で生活を営む個人家族・集団・組織の健康と保健行動 (2)	小 笹
4	5月 11日	地域の健康課題	小 笹
5	5月 18日	地域看護の支援に用いる概念モデル (1) プライマリ・ヘルス・ケア	小 笹
6	5月 25日	地域看護の支援に用いる概念モデル (2) 疫学	神 田
7	6月 1日	地域看護の支援に用いる概念モデル (3) ヘルスプロモーション	小 笹
8	6月 8日	地域の活動事例 (1)	小 笹
9	6月 15日	地域の活動事例 (2)	小 笹
10	6月 22日	地域の活動事例 (3)	小 笹
11	6月 29日	地域における連携と協働	谷 口
12	7月 6日	地域の支援困難事例	小 笹
13	7月 13日	へき地・離島における地域看護活動	小 笹
14・15	集中講義 (土)	地域看護活動と研究	岡 本

都合により日程を変更することがある。

地域・在宅看護学演習

単位数：2 単位

小 笹 美 子：地域・老年看護学講座 教授

1. 科目の教育方針

地域看護学領域における関心のあるテーマについて、研究計画書作成までのプロセスを体験し、基本的な研究能力の獲得を目指す。

2. 教育目標

- 1) 地域看護学領域における国内外における研究の動向と最新の知見を理解できる。
- 2) 研究テーマに関連した文献レビュー やクリティイークを行い、研究テーマに関する課題を明確にできる。
- 3) 研究課題に基づき研究計画を作成することができる。
- 4) 研究を行うために不可欠な研究倫理を理解した上で研究を実施することができる。

3. 評価

【進め方】

学生の事前学習を踏まえたプレゼンテーションと討議を中心に授業を進める。受け身ではなく積極的に学ぶこと。

【評価】

授業への出席、レポート、討議への参加から総合的に評価を行う。

4. 使用テキスト、参考文献等

テキストは特に指定せず、参考文献等を適宜紹介する。

参考図書：松村真司、臨床家のための臨床研究デザイン塾テキスト③ 概念モデルをつくる、特定非営利活動法人健康医療評価研究機構

5. 教育内容

回	月/日	内 容	講師
1・2	9月26日	地域看護領域における研究の意義と研究倫理	小 笹
3・4	10月3日	研究の種類と研究計画書の作成	小 笹
5・6	10月10日	地域看護領域における文献検索と文献研究（1）	小 笹
7・8	10月17日	地域看護領域における文献検索と文献研究（2）	小 笹
9・10	11月7日	地域領域における研究課題と研究テーマ（1）	小 笹
11・12	11月14日	研究テーマと研究デザイン	小 笹
13・14	調整中	地域をベースとした研究の実践（1）	小 笹
15・16	調整中	地域をベースとした研究の実践（2）	小 笹
17・18	11月28日	地域領域における研究課題と研究テーマ（2）	小 笹
19・20	12月5日	研究計画書の作成（1）	小 笹
21・22	12月12日	研究計画書の作成（2）	小 笹
23・24	12月19日	成果発表とプレゼンテーション（1）	小 笹
25・26	1月16日	成果発表とプレゼンテーション（2）	小 笹
27・28	1月22日	研究計画書の作成（3）	小 笹
29・30	1月30日	研究計画書の作成（4）	小 笹

母子看護学特論

単位数：2単位

福田 誠司：臨床看護学講座教授
秋鹿 都子：臨床看護学講座准教授
松浦 志保：臨床看護学講座講師

1. 科目の教育方針

ライフサイクルと生涯発達の視点に立って、母子関係および家族関係に関する理論を学び、特に健康に問題を持つ小児と家族の特性、小児の健康問題に関する最新の知見や母子保健・福祉施策を通して母子および家族の健全な発達を支援する方策について学習する。

2. 教育目標

- 1) 青年期の性に対する意識と行動、妊娠中の胎児認知、母性意識の発達が妊娠・出産及びその後の母子の健康に与える影響について考察し、母子および家族の健全な関係発展に向けての看護介入の方法を学習する。
- 2) 小児とその家族を取り巻く現代の社会状況を多面的に理解するとともに、心理的側面からの理解を深め、健康に問題をもつ小児の成長・発達を支援していくために、諸理論を検討しながら、看護の果たす役割と援助方法について学習する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

- 1) 講義および学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。
- 2) 母子および家族の健全な発達を支援する立場から方法論について議論を深める。

【評価】

講義への参加状況、プレゼンテーション内容、レポートにて総合的に評価する。

4. 使用テキスト、参考文献等

テキストは使用しない。

- 1) ルヴァ・ルービン著：新道幸恵、後藤桂子訳 母性論 母性の主観的体験.医学書院 1997
- 2) 上田礼子：生涯人間発達学. 改訂2版 三輪書店 2005
- 3) 堀内成子監修：助産師の意思決定. エルゼビア・ジャパン 2006
- 4) 武田鉄郎：腎疾患児の自己効力感と対処行動. 主観的健康統制感との関連 入院している中学部生徒を対象に 国立特殊教育統合研究所研究紀要 27巻 1-9, 2000

5. 教育内容

回	内 容	講師
1	日本における母子保健の現状	福田
2	母性論 1 (ルービンがとらえる母性の対象)	福田、 秋鹿、松浦
3	母性論 2 (妊婦の理解とその看護)	福田、 秋鹿、松浦
4	母性論 3 (褥婦の理解とその看護)	福田、 秋鹿、松浦
5	妊娠・出産期における女性への看護 (分娩の安全を確保するための取り組み)	福田、 秋鹿、松浦
6	育児期にある女性への看護 (産後のメンタルヘルス)	福田、 秋鹿、松浦
7	子どもの貧困とその背景	秋鹿
8	子どものこころのケアと育児支援	秋鹿/福田
9	小児医療における研究の動向	福田
10	小児医療における研究の動向	福田
11	母子の健康と環境	福田、 秋鹿、松浦
12	母子看護にみる看護の原点	福田、 秋鹿、松浦
13	アレルギーをもつ子どもと家族への看護	秋鹿
14	事例に基づく学習-1	未定
15	事例に基づく学習-2	未定

母子看護学演習

単位数：2単位

福田 誠司：臨床看護学講座教授

秋鹿 都子：臨床看護学講座准教授

1. 科目の教育方針

母子看護領域における関心あるテーマについて、研究計画書の作成までの研究プロセスを体験し、基本的な研究能力の獲得をめざす。

また、妊娠・出産・子育てをめぐる問題について、母子および家族の健全な発達を支援する具体的な援助方法について学ぶ。また、健康上の課題をもつ小児と家族への援助方法について学ぶ。

2. 教育目標

- 1) 母子看護領域における関心あるテーマに関する文献検討を行い、関係する概念、研究デザイン、研究目的、研究方法等を検討し、倫理面を考慮した研究計画書の作成ができる。
- 2) 青年期の性に対する意識と行動、妊娠・出産をめぐる健康上の課題について国内外の文献から検討し、母性を育成する方策や援助のあり方、周産期における母子援助の方策について学習する。
- 3) 長期療養児やターミナル期にある小児と家族を事例として、看護上の課題を明らかにし、看護職の果たす役割について総合的に理解できるように演習を行う。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

国内外の文献、事例、研究の実例を活用する。

【評価】

評価は演習への主体的参加状況等によって行う。

4. 参考文献等

テキストは使用しない。

- 1) The American Journal of Maternal Child Nursing
- 2) 及川郁子 監修、村田惠子編著：病いと共に生きる子どもの看護. メディカルフレンド社 2000
- 3) 及川郁子 監修、田原幸子編著：予後不良な子どもの看護. メディカルフレンド社 2000
- 4) 渡辺裕子：看取りにおける家族ケア. 医学書院 2005
- 5) 才木クレイク・ヒル滋子著：闘いの軌跡 小児がんによる子どもの喪失と母親の成長. 島書店 1999

5. 教育内容

回	内 容	講師
1・2	母子看護領域における問題意識、研究テーマについて	福田・秋鹿
3・4	母子看護領域において関心あるテーマに関する文献検討（1）	福田・秋鹿
5・6	母子看護領域において関心あるテーマに関する文献検討（2）	福田・秋鹿
7・8	母子看護領域において関心あるテーマに関する文献検討（3）	福田・秋鹿
9・10	母子看護領域において関心あるテーマに関する文献検討（4）	福田・秋鹿
11・12	母子看護領域において関心あるテーマに関する文献検討（5）	福田・秋鹿
13・14	母子看護領域において関心あるテーマに関する研究方法の検討（1）	福田・秋鹿
15・16	母子看護領域において関心あるテーマに関する研究方法の検討（2）	福田・秋鹿
17・18	母子看護領域において関心あるテーマに関する研究方法の検討（3）	福田・秋鹿
19・20	研究における倫理的配慮	福田・秋鹿
21・22	研究計画書の作成（1）	福田・秋鹿
23・24	研究計画書の作成（2）	福田・秋鹿
25・26	研究計画書の作成（3）	福田・秋鹿
27・28	研究計画書の作成（4）	福田・秋鹿
29・30	研究計画書の作成（5）	福田・秋鹿

成人看護学特論

単位数：2単位

矢田昭子：臨床看護学講座教授

宮下美香：広島大学保健学科教授

1. 科目の教育方針

疾患をもつ成人期の患者と家族の理解や看護援助について、必要な理論及び新しい知見を学習する。そして学習した理論や知見を臨床看護に応用できるように個々の体験に基づいて分析し、看護援助のあり方について検討する。これらをふまえて、成人期の患者と家族に対する看護および研究の方法について探求する。

2. 教育目標

- 1) 成人看護学に関する概念や理論を理解できる。
- 2) 疾患をもつ成人と家族の看護上の問題や現象について理論を用いて分析できる。
- 3) 疾患をもつ成人と家族を援助する方法を理解し、より効果的な援助方法を検討する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

- 1) 自ら文献検討を行い、問題意識を持って授業に臨む。
- 2) 講義や学生の事前学習を踏まえたプレゼンテーションと討論によって進める。

【評価】

講義、事前学習を踏まえたプレゼンテーションや討論への参加状況から総合的に評価する。

4. テキスト

テキストは特に指定しない。

【参考図書】

- 1) 野川道子：看護実践に活かす中範囲理論第2版、メヂカルフレンド社、2016.
- 2) 小島操子：看護における危機理論・危機介入改訂2版、金芳堂、2008.
- 3) E. キューブラー・ロス著、鈴木 晶訳：死ぬ瞬間—死とその過程について、中公文庫、2001.
- 4) 恒藤暁：系統緩和医療学講座、身体症状のマネジメント、最新医学社、2013.
- 5) 原書編集：Kenneth D. Miller 〔監修〕 勝俣範之 〔訳〕 金容壱 大山万容：がんサバイバー、医学書院、2012.
- 6) 〔編集〕 大西和子、飯節京子：がん看護学、ヌーヴェルヒロガワ、2011

5. 教育内容

14:30-16:00

回		内 容	講師
1	4/11	オリエンテーション	矢田
2	4/18	成人期の保健・健康課題	矢田
3	4/25	成人期の看護の対象の特性と看護の特徴①	矢田
4	5/2	成人期の看護の対象の特性と看護の特徴②	矢田
5	5/9	急激な身体侵襲時の看護の基盤となる概念と理論、研究の動向	矢田
6	5/16		矢田
7	5/23	事例検討	矢田
8	5/30	慢性期・回復期の看護の基盤となる概念と理論、研究の動向	矢田
9	6/6		矢田
10	6/13	事例検討	矢田
11	6/20	ターミナルケア・緩和ケアの基盤となる概念と理論、研究の動向	矢田
12	6/27		矢田
13	7/4	事例検討	矢田
14	集中講義 8/8	がん患者の理解と看護援助の基盤となる概念と理論、研究の動向	宮下
15			

※嘱託講師は集中講義とする

成人（急性・慢性）看護学演習

単位数：2単位

矢田昭子：臨床看護学講座教授

橋本龍樹：臨床看護学講座教授

森山美香：臨床看護学講座講師

1. 教育方針

成人看護学領域における興味・関心のある研究課題について研究計画書を作成し、看護研究に必要な基礎的な能力を修得する。

2. 教育目標

- 1) 成人看護学領域における研究の動向と最新の知見を理解できる。
- 2) 研究疑問に関連した文献検討を行い、研究課題を明確にできる。
- 3) 研究課題に基づき、研究計画書と看護研究倫理審査申請書が作成できる。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

学生の事前学習を踏まえたプレゼンテーションと討論によって進める。

【評価】

プレゼンテーションや討論への参加状況、研究計画書の作成過程を総合的に評価する。

4. テキスト

テキストは特に指定しない。隨時、提示する。

5. 教育内容

回	月/日	内 容	講師
1・2	10/3	看護実践における研究課題、事例分析（1）	矢田・橋本 森山
3・4	10/10	看護実践における研究課題、事例分析（2）	矢田・橋本 森山
5・6	10/17	関心テーマにそった文献検討とクリティック（1）	矢田・橋本 森山
7・8	10/24	関心テーマにそった文献検討とクリティック（2）	矢田・橋本 森山
9・10	10/31	関心テーマにそった文献検討とクリティック（3）	矢田・橋本 森山
11・12	11/7	関心テーマにそった文献検討とクリティック（4）	矢田・橋本 森山
13・14	11/14	研究方法（1）	矢田・橋本 森山
15・16	11/21	研究方法（2）	矢田・橋本 森・山
17・18	11/28	研究方法（3）	矢田・橋本 森山
19・20	12/5	研究方法（4）	矢田・橋本 森山
21・22	12/12	研究における倫理的配慮の検討	矢田・橋本 森山
23・24	12/19	研究計画書の作成と討論（1）	矢田・橋本 森山
25・26	1/9	研究計画書の作成と討論（2）	矢田・橋本 森山
27・28	1/16	研究計画書の作成と討論（3）	矢田・橋本 森山
29・30	1/30	研究計画書の作成と討論（4）	矢田・橋本 森山

高齢者看護学特論

単位数：2単位

原 祥子：地域・老年看護学講座教授

1. 科目の教育方針

高齢者の健康問題に適切に対処していくためには、高齢者看護学に関する基本的な概念や諸理論、健康生活に関する評価方法とその技術を活用し、加齢のプロセスで生じる心身の健康問題と生活への影響について適切な判断と評価を行うことが求められる。高齢者の健康生活を支える看護実践に向けて、高齢者の健康生活上のニーズの査定に必要な理論と方法の修得を目指す。

2. 教育目標

- 1) 高齢者看護学に関する基本的概念や理論について理解する。
- 2) 高齢者健康生活評価の諸側面と視点、評価方法の実際を学ぶ。
- 3) 高齢者の健康生活を維持・促進するための看護援助について検討する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

講義、学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。

【評価】

文献抄読レポート、プレゼンテーション内容、討論での取り組みと貢献度等により総合的に評価する。

4. 使用テキスト、参考文献等

テキストは指定しない。参考文献等を適宜提示する。

【参考文献】

- 1) E.H.エリクソン, J.M.エリクソン, H.Q.キヴニック：老年期, みすず書房, 1997.
- 2) E.H.エリクソン, J.M.エリクソン：ライフサイクル・その完結, みすず書房, 2001.
- 3) プリシラ・エバーソール, 他：ヘルシー・エイジング, エルゼビア・ジャパン, 2007.
- 4) 鳥羽研二編著：高齢者の生活機能の総合的評価, 新興医学出版社, 2010.
- 5) 鳥羽研二監修：高齢者総合的機能評価ガイドライン, 厚生科学研究所, 2003.
- 6) 安梅勲江：エンパワメントのケア科学 当事者主体チームワーク・ケアの技法, 医歯薬出版, 2004.

5. 教育内容

回	月/日	内 容	講師
1	4/11	老いを生きる人を理解するための理論 ・加齢に関する理論 ・適応とサクセスフルエイジング ・生涯発達理論、ライフサイクル理論	原
2	4/18		
3	4/25	老いを生きる人々の健康生活を支える看護（1） ・高齢者の全体論的視点、高齢者看護の定義	原
4	5/2	老いを生きる人々の健康生活を支える看護（2） ・「老いを生きること」に関する文献 ¹⁾²⁾ の抄読 (プレゼンテーションと討論)	原
5	5/9		
6	5/16		
7	5/23	高齢者の健康生活評価に関する理論と方法 ・高齢者総合評価（CGA）の背景と意義、構成とプロセス	原
8	5/30	高齢者の健康生活に関する評価（1） ・身体機能（ADL・IADLなど）、精神機能	原
9	6/20	高齢者の健康生活に関する評価（2） ・生理機能、感覚機能、認知機能	原
10	6/27	高齢者の健康生活に関する評価（3） ・主観的健康感、幸福感、生活満足度、QOL	原
11	7/4	高齢者の健康生活に関する評価（4） ・環境の快適性と安全性、社会関係 (住環境、ソーシャルネットワークなど)	原
12	7/11	高齢者の健康生活に関する評価（5） ・家族機能（介護負担など）	原
13	7/18	高齢者の健康生活支援に向けて ・エンパワメントの概念とその適用、評価指標	原
14	8/1	高齢者の健康生活アセスメント（事例検討：思考プロセスの明確化）	原
15	8/8	高齢者の人権と権利擁護（健康生活を営む権利と自己決定）	原

高齢者看護学演習

単位数：2単位

原 祥子：地域・老年看護学講座教授
加藤 真紀：地域・老年看護学講座准教授

1. 科目の教育方針

各自の関心領域における看護ケアの実施・参加観察・実験・調査等を踏まえた実践的検討および文献の批判的考察による理論的検討を通して、疾病や障害をもつ高齢者の生活に生起する現象の探究、保健・医療・福祉施設や在宅で生活する高齢者とその家族への看護モデルの開発を目指した研究方法を追究する。

2. 教育目標

- 1) 高齢者看護における国内外の研究の動向を把握する。
- 2) 自己の問題意識と追究課題を絞り込む。
- 3) 自己の研究課題の位置づけについて、看護実践の改善や看護モデル開発の視点で捉える。
- 4) 研究方法を具体化させるプロセスを理解する。
- 5) 高齢者看護研究における倫理的側面を理解したうえで、効果的に研究を推進していくための方法を修得する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

講義、学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。

【評価】

プレゼンテーション内容、討論での取り組みと貢献度等により総合的に評価する。

4. 使用テキスト、参考文献等

テキストは指定しない。参考文献等を適宜提示する。

【参考文献】

- 1) 横山美江編：よくわかる看護研究の進め方・まとめ方－エキスパートをめざして、医歯薬出版、2005.

5. 教育内容

回	内 容	講師
1・2	高齢者看護における国内外の研究動向	原・加藤
3・4	関心領域における高齢者看護事例の実践的検討（1）	原・加藤
5・6	関心領域における高齢者看護事例の実践的検討（2）	原・加藤
7・8	関心テーマにおける文献検討（1）	原・加藤
9・10	関心テーマにおける文献検討（2）	原・加藤
11・12	関心テーマにおける文献検討（3）	原・加藤
13・14	問題意識と追究課題の検討（1） 追究課題の背景	原・加藤
15・16	問題意識と追究課題の検討（2） 追究課題に関連する先行文献のレビュー	原・加藤
17・18	問題意識と追究課題の検討（3） 課題の追究に必要かつ有効な諸理論の検討	原・加藤
19・20	研究課題に適した研究方法の検討（1）	原・加藤
21・22	研究課題に適した研究方法の検討（2）	原・加藤
23・24	高齢者看護研究に必要な倫理的配慮の検討	原・加藤
25・26	研究計画書の作成	原・加藤
27・28	研究計画書の発表・討論（1）	原・加藤
29・30	研究計画書の発表・討論（2）	原・加藤

高齢者看護学実習

単位数：6 単位

原 祥子：地域・老年看護学講座教授
加藤 真紀：地域・老年看護学講座准教授

1. 科目の教育方針

高齢者看護について創意工夫をしながら優れた看護活動を行っている病院、介護保険施設、訪問看護ステーション等において、豊富な高齢者看護実践経験をもつ看護職者の指導のもとでの看護実践を通して、直接的な看護実践の能力を向上させるとともに、相談、ケア調整、倫理調整、スタッフ教育の能力を開発する。実習を通して、高齢者看護ケアを変革・発展させていくことのできる老人看護専門看護師としての視点を養う。

2. 教育目標

- 1) 既習の理論やモデルを適用し、複雑な健康問題をもつ高齢者とその家族に対して、適切なアセスメントに基づく判断、問題解決へ向けた看護援助の実践、援助結果の適切な評価ができる。
- 2) 実習指導者の指導のもとに（実習指導者とともに）行われた看護実践、相談、調整等について、その意図や方略、評価方法を理解する。
- 3) 高齢者とその家族、専門職者間で生じた倫理的課題に対する調整方法を理解する。
- 4) スタッフへの教育的働きかけや教育的環境づくり等、継続教育における老人看護専門看護師の役割を理解する。
- 5) 高齢者看護の組織・機関における実践的研究課題を見出し、その課題の解決の方向性について考察することができる。

3. 実習施設・時期および内容

- 1) 病院・施設における高齢者看護実習

【実習施設】松江市立病院

【実習時期】1年次 2~3月の4週間

【実習内容】実習指導者の指導のもとに、高齢者とその家族に対する看護実践を行い、老人看護専門看護師が果たす相談・ケア調整・倫理調整・スタッフ教育の役割について、実習施設における実践を通して学ぶ。

- 2) 認知症高齢者看護実習

【実習施設】介護老人保健施設ナーシングセンターあけぼの

グループホーム太陽の里（認知症対応型共同生活介護）

太陽の里デイサービスセンター（認知症対応型通所介護事業所）

【実習時期】2年次 5~6月の4週間

【実習内容】実習指導者の指導のもとに、認知症高齢者とその家族に対する看護実践を行い、相談・ケア調整・倫理調整・スタッフ教育について、実習施設における実践を通して学ぶ。

3) 在宅における高齢者看護実習

【実習施設】にし出雲訪問看護ステーションたんぽぽ

又は

訪問看護ステーションやすらぎ

【実習時期】1年次～2年次前期の週2日程度、4週間

【実習内容】実習指導者の指導のもとに在宅療養高齢者への看護活動を体験する。

4. 評価

実習内容、レポートのほか、学生の自己評価および実習指導者の意見を踏まえて、単位認定者（原 祥子）が総合的に判断し評価する。

5. 備考

詳細については、別途、高齢者看護学実習要項を提示する。

リスクマネジメント論

単位数：2単位

内田宏美：基礎看護学講座教授

嶋森好子：岩手医科大学看護学部長

1. 科目の教育方針

医療安全管理体制の整備が診療報酬システム上でも制度化され、医療リスクマネジメントを推進するための基盤は一応整ったといえる。しかし、高度化・複雑化する医療におけるリスクは増大し続けており、リスクマネジメントの効果的な展開のための理論的方法を構築する必要に迫られている。本科目では、臨床現場の医療安全推進者に照準を当て、組織横断的なネットワークを基盤としたリスクマネジメントの理論的な方法に重点を置いて学習する。

2. 教育目標

- 1) 医療リスクマネジメントの理念・概念・理論・基本的な方法を理解する。
- 2) 現場の医療安全推進者としての活動の遂行に必要な基礎的知識と技術を修得する。
- 3) 医療安全管理者に求められる知識と技術を理解し、その役割を展望する。
- 4) 医療安全の遂行における情報ネットワーキングの必要性・重要性を理解する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

- 1) 基本テキストを熟読し、自ら文献検討を行い、問題意識を持って授業に臨む。
- 2) 臨床現場の取組みを批判的に分析し、ディスカッションをふまえて課題を解決するための改善策を見出す。

【評価】

評価は授業への主体的参加度、課題学習、プレゼンテーション、課題レポート等により総合的に行う。

4. 使用テキスト、参考文献等

1) 基本テキスト

- (1) Lコーン：人は誰でも間違える、日本評論社、2000
- (2) 河野龍太郎：医療におけるヒューマンエラー、医学書院、2004

2) 参考図書

- (1) Lコーン：医療の質、日本評論社、
 - (2) Lコーン：患者の安全、日本評論社
 - (3) 今中雄一監訳：医療安全のエビデンス-患者を守る実践方策、医学書院、2005
 - (4) 嶋森好子・他：病棟から始めるリスクマネジメント、医学書院、2003
 - (5) 内田宏美・他：実践から学ぶ病院リスクマネジメント、診断と治療社、2005
 - (6) Jリーズン：保守事故-ヒューマンエラーの未然防止のマネジメント、日科技連、2005
- *その他、授業の中で適宜紹介する。

5. 教育内容

※後期前半(木)12:45～14:15

回	月/日	内 容	講師
1	6/25(日) 10:30～ 15:30	※ 米子市コンベンションセンター 医療リスクマネジメントの実際(山陰リスクマネジメント研究会)	内田
2		医療安全ネットワーキング構築の実際	
3	10/5 14:00～ 17:15	我が国の医療安全の取り組みの経緯 医療安全ネットワークの構築	嶋森
4		医療安全における看護職の責任 ・当事者支援における課題 ・行政処分を受けた看護師の教育基盤の整備	
5	10/12	リスクマネジメント概説 ・医療リスクマネジメントの理念、説明モデル・プロセス	内田
6	10/19	リスクマネジメントの方法 ・医療リスクマネジメントにおけるPDCAサイクル ・医療安全推進機能の組織化と協働システム・危機管理 ・事故発生時の対応　・紛争・訴訟の発生防止	内田
9	11/2	医療安全管理者の役割と機能 ・リーダーシップと組織変革　・情報プロセッシングパワーの活用 医療安全管理者の役割と機能 ・リーダーシップと組織変革　・情報プロセッシングパワーの活用	内田
10	11/9	リスクマネジメントの理論と方法：基礎文献講読 ・「TO ERROR IS HUMAN」	内田
11	11/16	リスクマネジメントの理論と方法：基礎文献講読 ・「TO ERROR IS HUMAN」	内田
12	11/30	リスクマネジメントの理論と方法 ・ヒューマンエラーの原理　・エラー分析の手法	内田
13	12/7	リスクマネジメントの理論と方法 ・事例検討：背景要因の分析と事故防止対策の立案	内田
14	12/14	リスクマネジメントの理論と方法 ・事例検討：背景要因の分析と事故防止対策の立案	内田
15	12/21	リスクマネジメントの理論と方法 ・事例検討：背景要因の分析と事故防止対策の立案	内田
		課題レポート　〆切 1/9 (火) ：医療安全における看護専門職の責務と課題	内田

看護人材育成論

単位数：2 単位

津本優子：基礎看護学講座教授
任 和子：京都大学大学院医学研究科
人間健康科学系専攻教授

1. 科目の教育方針

専門職としての看護職は、時代の変化に対応して、幅広い視点から社会の健康問題を捉え、自ら課題に取り組み、自らの役割を開拓していかなければならない。特に、CNS をはじめとする大学院修了者には、看護継続教育を企画し運営して、看護専門職の人材育成においてリーダーシップを発揮することが期待されている。

本科目では、専門職としての生涯学習の観点から、看護基礎教育の基盤の上に看護実践能力を効果的に発展させるための看護継続教育の考え方と方法を、理論的根拠に基づいて学習する。さらに、実際の教育計画を批判的に分析し、改善策を検討することをとおして、人材育成と活用に必要な洞察力や判断力、問題解決能力を高めることを目指す。

2. 教育目標

- 1) 看護学の基礎教育及び継続教育の歴史と現状、課題を理解する。
- 2) 看護専門職のキャリア開発における基本概念、理論を理解する。
- 3) 看護継続教育の実際を批判的に分析し、改善すべき課題を明確化できる。
- 4) ジェネラリスト育成のモデルプランを作成できる。
- 5) スペシャリスト活用における課題を明確化し、対策を提示できる。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

- 1) ゼミナール形式で行う。
- 2) 学生の課題に対するプレゼンテーションに基づいて討論し、学習を深める。

【評価】

評価は出席、授業の参加度、プレゼンテーションの内容、レポートを総合的に評価する。

4. 参考文献等

- 1) 小山眞理子編集、看護教育の原理と歴史、医学書院、2003.
- 2) P.ベナー（井部俊子訳）：ベナー看護論、医学書院
- 3) 平井さよ子：看護職のキャリア開発、変革期のヒューマンリソースマネジメント、日本看護協会出版会、2002
- 4) 渡辺三枝子編著『新版 キャリアの心理学』ナカニシヤ出版、2007
- 5) エドガーH.シャイン『キャリア・アンカー 自分の本当の価値を発見しよう』白桃書房、2003

*その他 隨時、授業で紹介する

5. 教育内容

(木) 14:30~16:00

回	月/日	内 容	講師
1	10/12	看護専門職としてのキャリア	津本
2	10/19	看護継続教育をめぐる動向と展望及び課題	津本
3	<u>10/26</u> <u>(木)</u>	看護人材育成と活用の実際 ・ジェネラリストの育成と活用の実際と課題	任
4	<u>12:45-</u> <u>16:00</u>	・スペシャリスト育成と活用 ・ジェネラリストとスペシャリストの効果的な協働	
5	11/2	専門職業人とキャリア 1) 専門職の概念 2) 生涯発達心理学の視点とキャリア 3) 専門職業人としての看護職のキャリア・ディベロップメント	津本
6	11/9	看護専門職業人の育成 1) ベナー看護論 2) ベナー看護論の活用：クリニカルラダー・システム ①ラダーの段階 ②臨床実践能力の3側面	津本
7	11/16	3) クリニカルラダーによるジェネラリストの育成 ①卒後継続教育の視点と方法	津本
8	11/30	看護専門職業人の育成 3) クリニカルラダーによるジェネラリストの育成 ②新人～一人前看護師の看護実践能力育成の視点・方法・課題	津本
9	12/7	③中堅～ベテラン看護師の臨床実践能力育成の視点・方法・課題 4) 専門看護師の教育的機能、スペシャリストの育成と課題 5) 看護管理者、教育研究者の育成と課題	津本
10	12/14	看護学教育評価の視点と方法 ：評価の目的・プロセスと種類・評価方法	津本
11	12/21	ラダーシステムによる教育プログラムの作成 演習①臨床実践能力の帰納的分類、実践能力育成課程の構造化	津本
12・ 13	1/11	演習② 教育目標・評価方法・教育方法の設定：新卒看護師 演習③ 教育目標・評価方法・教育方法の設定：一人前看護師	津本
14・ 15	1/18	演習④ 教育目標・評価方法・教育方法の設定：中堅看護師 演習⑤ ジェネラリストとスペシャリストの協働モデルの検討	津本
		まとめ 課題レポート：人材育成における課題と対策	〆切 2/1(木)

看護情報管理論

単位数：2単位

津本優子：基礎看護学講座教授

石垣恭子：兵庫県立大学大学院応用情報科学研究科教授

1. 科目の教育方針

看護実践における情報収集・処理、問題の選択・抽出、優先順位の決定、実施、評価という基本過程に十分な検討を加え、地域社会、在宅日常生活における、地理的、時間的、空間的事象をつなぐ情報特性を用いた連携、継続、システム構築においての理論、手技を看護基礎科学分野の一部として位置づけ、教授する。

2. 教育目標

- 1) 看護と情報に関する基本的知識を深める。
- 2) 看護情報システムの在り方や構築方法について理解する。
- 3) 看護情報の標準化について適用を試みる
- 4) 看護情報教育について現状を知り、情報教育の在り方を認識する。
- 5) 地域医療情報システムについて理解し、認識を深める。
- 6) 情報倫理と個人情報保護法について理解する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

- 1) 基本テキストより、分担課題に関する事前学習を行い、パワーポイント、資料を用いて、担当学生がプレゼンテーションを行なう。
- 2) プrezentation後ディスカッションを行ない、教員が当該分野について補足説明及び講義を行ない、理解を深める。

【評価】

授業への主体的な参加（発言等）の程度、課題レポート等により総合的に評価する。

4. 使用テキスト、参考文献等

- 1) テキスト：キャサリン・J・ハンナ他：看護情報学への招待、中山書店
※絶版になっているため、入手できなくてよい

- 2) 参考文献

日本医療情報学会誌

講義中に紹介、アドバイスする

5. 教育内容

回	月/日	内 容	講師
1	4/13	課題分担の決定 情報科学の基礎 1	津本
2	4/20	情報科学の基礎 2	津本
3	4/27	看護情報学教育と専門職性	津本
4	5/11	看護情報と EBN ・看護系学会ホームページと文献検索システム ・看護情報の分析とデータマイニング	津本
5	5/18	看護情報学の成立と看護情報の特徴と分析	津本
6	5/25	病院・看護システム開発 ・システムの基本 コンピュータシステムの開発・手順	津本
7	6/1	看護データの標準化 ・看護情報の標準化例 NANDA NIC NOC OMAHA ICNP	津本
8・9	6/15 9:30～	情報倫理と患者情報 ・看護情報を研究に使用する際のガイドライン ・守秘義務と患者情報の取り扱い・個人情報保護法	石垣
10・11	6/22 9:30～	看護データの標準化 ・看護電子記録のための看護用語の標準化 ・標準看護用語、MEDIS 開発例と手順	石垣
12	6/29	病院・看護システム開発 ・看護における情報システムの適用	岩田*
13	7/6	病院・看護システム開発 ・システムの基本 コンピュータシステムの開発・手順	岩田*
14・15	7/27 9:00～	保健情報学と地域社会 ・行政における保健、医療、福祉情報システム ・介護保険とコンピュータシステム・遠隔看護とシステム	石垣
		課題レポートの提出 ・各自の分担部分を深め、考察を加えてレポートを作成する	津本

* 島根大学医学部附属病院

保健医療福祉政策論

単位数：2単位

小 笹 美子：地域・老年看護学講座 教授

岸 恵 美子：東邦大学看護学部 教授

牧 野 由 美子：島根県出雲保健所 所長

馬 庭 恭 子：元 YMCA 訪問看護ステーション地域看護 CNS

1. 科目の教育方針

看護管理者、CNS や大学院修了者などの高度看護実践者には、社会のヘルスニーズに対して看護の仕事の仕組みを自ら変革し、創造していく能力、保健医療福祉等の関連サービスに携わる人々と連携・協働して活動する実践能力が求められる。さらには、問題の本質的解決のために必要な施策を提示し、制度化に繋いでいくマネジメント能力が求められる。

少子高齢化社会のヘルスニーズに対応する保健医療福祉システムとその基盤となる制度・政策の動向と課題を踏まえて、現状を分析し、改善・改革すべき問題に焦点を当て、データに基く改善・改革策を行政機関等に提示しうる基礎的能力を培う。

2. 教育目標

- 1) 少子高齢化が進行する我が国の保健医療福祉政策の動向を理解し、国民の健康の保持増進を支える政策・制度の重要性と課題について考察する。
- 2) 我が国の看護制度の歴史的変遷を理解し、国民の健康を支えるための、看護政策・制度の課題を考察する。
- 3) 高齢者ケアに関連した保健医療福祉の現場の現状を分析し、データに基づいて改善・改革を提言する経験を通して、公的機関や組織の意思決定に影響を与える戦略的アプローチの方法を習得する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【進め方】

- 1) 自ら文献検討および資料収集を行い、問題意識を持って授業に臨むことを前提とする。
- 2) 人々の健康生活の維持・向上の観点から現状を分析し、意思決定者を巻き込んでシステム改善や制度改革によって問題の根本的解決を図る、戦略的アプローチを試みる。

【評価】

- ・プレゼンテーション、レポートの緻密さ・的確さ・論理性等により総合的に判断する。

4. テキスト

- 1) 国民衛生の動向(2017年8月に出版されたもの)

《参考資料》

- ・看護白書、国民の福祉と介護の動向、保険と年金の動向
- ・井部俊子他監修『看護管理学習テキスト⑦ 看護制度・政策論』日本看護協会出版会

5. 教育内容

※ 後期(木)18:00~19:30 および集中講義

回	月/日	内 容	講師
1	<u>9/9(土)</u> <u>11:00-</u> <u>12:30</u>	看護政策の課題と展望 (1) 我が国の保健・医療・福祉制度の変遷 ・医療保険制度、診療報酬の仕組み、 ・看護の質保証の仕組みと課題	小笠
2	<u>9/9(土)</u> <u>13:30-</u> <u>16:45</u>	超高齢社会であるわが国の社会政策・制度 1) 超高齢社会における社会保障のあり方と課題 ・保健医療福祉政策の歴史的変遷 ・社会保障と税の一体改革	牧野
3		2) 超高齢社会の保健医療福祉を支える制度 ・後期高齢者医療制度とその改革 ・島根県の超高齢化の進展と保健医療政策 ・高齢者の健康生活を支える地域ネットワーク	
4	<u>9/16(土)</u> <u>9:00-</u> <u>12:15</u>	看護政策の課題と展望 (2) ・認知高齢者ケアの充実 ・介護保険制度とその改革 ・高齢者の健康を支える訪問看護制度・療養通所介護 ・ターミナルケアの充実	岸
5			
6	9/28(木)	住民ニーズにおける保健医療福祉政策の事例 1 発表と討議	小笠
7	10/5(木)	住民ニーズにおける保健医療福祉政策の事例 2 発表と討議	小笠
8	10/19(木)	住民ニーズにおける保健医療福祉政策の事例 3 発表と討議	小笠
9	10/26(木)	住民ニーズにおける保健医療福祉政策の事例 4 発表と討議	小笠
10	11/9(木)	住民ニーズにおける保健医療福祉政策の事例 5 発表と討議	小笠
11	<u>11/18(土)</u> <u>9:30-</u> <u>14:30</u>	超高齢化社会であるわが国のヘルスケアニーズと看護 * 超高齢社会の保健医療福祉の中での看護職の役割 ・病院から地域へ：総合看護・継続看護で健康生活を支える ・end of life を支える：訪問看護、在宅、施設における看護の充実 ・看護のパワーを政策に生かす	馬庭
12			
13			
14	11/30(木)	住民ニーズにおける保健医療福祉政策の事例 6 発表と討議	小笠
15	12/7(木)	住民ニーズにおける保健医療福祉政策の事例 7 発表と討議	
		まとめ (課題レポートの提出) 12月21日 (木) メ切	

母子フィジカルアセスメント方法論

単位数：2単位

福田 誠司：臨床看護学講座 教授
並河 徹：病態病理学講座 教授
鬼形 和道：卒後臨床研修センター 教授
秋鹿 都子：臨床看護学講座 準教授
金崎 春彦：周産期母子医療センター 準教授
狩野 賢二：クリニックスキルアップセンター 講師
石川万里子：附属病院 副看護師長

1. 科目の教育方針

母子を看護の対象とするためには正常な過程にあることを診断し、そのうえで自立して看護を展開する能力が求められている。そのような意味から、フィジカルアセスメント能力は非常に重要である。本科目では、母性および小児の健康問題を理解するために必要なフィジカルアセスメントの専門的技術の方法を学ぶ。

2. 教育目標

- 1) 母性の健康問題の理解に必要なフィジカルアセスメント技術の目的と方法を修得する。
- 2) 小児の健康問題の理解に必要なフィジカルアセスメント技術の目的と方法を修得する。
- 3) 生殖に関連する倫理的問題を理解し、支援できる能力を養う。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

講義および学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。

【評価】

講義への参加状況、プレゼンテーション内容、レポートにて総合的に評価する。

4. 使用テキスト、参考文献等

講義の中で適宜提示、資料を配布する。

5. 教育内容

回	内 容	講師
1	母子看護におけるフィジカルアセスメントの目的、意義	福田・秋鹿
2	アレルギー疾患をもつ小児のフィジカルアセスメント	秋鹿 (羽根田)
3	循環器疾患をもつ小児のフィジカルアセスメント	福田(安田)
4	新生児疾患をもつ小児のフィジカルアセスメント	福田(柴田)
5	血液疾患をもつ小児のフィジカルアセスメント	福田(金井)
6	神経疾患をもつ小児のフィジカルアセスメント	福田
7	小児のフィジカルアセスメント	福田
8	感染症をもつ小児のフィジカルアセスメント	鬼形
9	婦人科疾患を持つ女性のフィジカルアセスメント	金崎
10	遺伝的疾患をもつ小児の診断技術（遺伝カウンセリング）	並河
11	糖尿病をもつ妊婦のフィジカルアセスメント	福田（石川）
12	超音波による診断技術	狩野
13	事例における小児のフィジカルアセスメント	福田・秋鹿
14	事例における母性フィジカルアセスメント	福田・秋鹿
15	事例における母子フィジカルアセスメント	福田・秋鹿

重症者フィジカルアセスメント方法論

単位数：2単位

橋本 龍樹：臨床看護学講座教授
森山 美香：臨床看護学講座講師

1. 科目の教育方針

重症・急性期における生体反応の病態生理を理解し、高齢者に多い疾患を含めた各種疾患における臨床的なアセスメントの方法論を学び、科学的根拠に基づく看護を行うための基礎的事項から最新の知識を学ぶ。

2. 教育目標

- 1) 重症者における血糖管理と重症糖尿病患者の管理
- 2) 急性期神経疾患のアセスメント
- 3) 循環器系のアセスメント
- 4) 呼吸器系のアセスメント
- 5) 泌尿器系のアセスメント消化器系のアセスメント
- 6) 重症精神疾患患者における管理
- 7) 皮膚疾患、全身疾患における皮膚のアセスメント
- 8) 口腔機能のアセスメントと口腔ケア
- 9) 嘔下機能のアセスメント
- 10) 運動器疾患の病態・アセスメント・治療
- 11) 消化器系のアセスメント
- 12) PEG による高齢者の栄養管理
- 13) 高齢者における PEM のアセスメントと対策 (NST の活動を通して)
- 14) 生命の危機状態にある高齢患者の呼吸・循環管理
- 15) 手術侵襲による高齢者の生体反応と回復過程を理解する

3. 教育方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

講義形式を基本とする。教育内容によっては、医学部臨床系講座の先生方（ゲストスピーカー）に、問診（症状の成り立ち）、身体診察、病態解析に必要な検査手技などをわかりやすく解説していただく。

【評価】

評価は講義への参加状況とレポートなどで行う。

4. 使用教科書、参考書等

教科書、参考書等は指定せず、各教員が資料または文献を配布する。

5. 教育内容

回		内 容	講師 (ゲストスピーカー)
1	4月11日	生命の危機状態にある高齢患者の呼吸・循環管理	森山
2	4月18日	重症者における血糖管理と重症糖尿病患者の管理	橋本・森山 (内分泌代謝内科・守田)
3	4月25日	急性期神経疾患のアセスメント	橋本・森山 (神経内科・小黒)
4	5月9日	手術侵襲による高齢者の生体反応と回復過程	森山
5	5月16日	呼吸器系のアセスメント	橋本・森山 (呼吸器・臨床腫瘍学・磯部)
6	5月23日	泌尿器系のアセスメント (高齢者における尿失禁の診療を中心に)	橋本・森山 (泌尿器科・椎名)
7	5月30日	重症精神疾患患者における管理 (せん妄への対応を含む)	橋本・森山 (精神神経科・長濱)
8	6月6日	皮膚疾患、全身疾患における皮膚のアセスメント	橋本・森山 (皮膚科・森田)
9	6月13日	急性期にある高齢患者の口腔機能のアセスメントと口腔ケア	橋本・森山 (口腔外科・管野)
10	6月20日	嚥下機能のアセスメント	橋本・森山 (リハビリテーション部・蓼沼)
11	6月27日	運動器疾患(骨粗鬆症・高齢者の骨折)の病態・アセスメント・治療	橋本・森山 (整形外科・内尾)
12	7月4日	出血性潰瘍の重症患者の重症度評価、止血治療、止血治療後の観察	橋本・森山 (消化器内科・三代)
13	7月11日	「PEGの適応・造設・管理 ー空腸瘻、PTEGも含めてー」	橋本・森山 (消化器内科・川島)
14	7月18日	栄養ケア・マネジメント	橋本・森山 (臨床栄養部・平井)
15	7月25日	循環器系のアセスメント	橋本・森山 (循環器内科・田邊)
講義は、原則として 火曜日 16:15~17:45 N502 演習室で行います。 第1回講義は4月11日に行います。 講義担当者の都合により、講義担当者が変更となる場合もあります。 予備日：8/1、8/8、8/22、8/29			

臨床薬理・薬剤学

単位数：2単位

小林裕太：特任教授

直良浩司：医学部附属病院薬剤部教授

1. 科目の教育方針

薬物と生体の相互作用の結果起こる現象とその機構を理解し、薬物による疾病の治療や疾病の再発予防に関する理論を学ぶ。薬理学については看護師の基礎教育で一通りの知識を持っているという前提で、研究動向を含め、がん治療や慢性疾患治療、高齢者薬物療法などのトピックスを紹介する。さらに薬物による副作用および薬剤の管理について学ぶ。

2. 教育目標

- 1) 薬物による生体制御の基礎を理解する。
- 2) 薬物による疾病の治療や再発予防に関する理論を知る。
- 3) 薬物開発、治療法開発の研究動向を知る。
- 4) 医療現場での薬剤管理や服薬支援に必要な知識を修得する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

講義形式で行う。

【評価】

レポートの緻密さ・的確さ・論理性等により評価する。

4. 使用テキスト、参考文献等

- 1) テキストは指定しない。
- 2) 参考文献等を適宜提示する。

5. 教育内容

回	月/日	時間	内 容	講師
1	11/28	12:45 ~ 14:15	臨床薬理総論：薬の作用と疾病の治療	小林
2	11/28	14:30 ~ 16:00	薬物の体内動態・治療効果と与薬	小林
3	12/5	12:45 ~ 14:15	感染症とその治療	小林
4	12/5	14:30 ~ 16:00	治療と患者および医療者の安全	小林
5	12/12	12:45 ~ 14:15	がんの薬物療法	小林
6	12/12	14:30 ~ 16:00	緩和ケアの動向	小林
7	12/19	12:45 ~ 14:15	内分泌系治療薬の動向	小林
8	12/19	14:30 ~ 16:00	循環器治療薬の動向	小林
9	1/9	12:45 ~ 14:15	服薬支援と薬剤管理	直良
10	1/9	14:30 ~ 16:00	免疫関連疾患治療薬の動向	小林
11	1/16	12:45 ~ 14:15	呼吸器疾患治療薬の動向	小林
12	1/16	14:30 ~ 16:00	精神疾患治療薬の動向	小林
13	1/23	12:45 ~ 14:15	高齢者の薬物治療	小林
14	1/23	14:30 ~ 16:00	高齢者の薬物治療各論	小林
15	1/30	14:30 ~ 16:00	新薬の開発と臨床治験	小林

高齢者看護実践論

単位数：2単位

原 祥子：地域・老年看護学講座教授
加藤 真紀：地域・老年看護学講座准教授
泉 キヨ子：帝京科学大学医療科学部看護学科教授

1. 科目の教育方針

複雑な健康問題をもつ高齢者とその家族について、専門的知識と理論に基づいて判断し、問題解決へ向けた看護援助ができる能力を開発する。また、高齢者のセルフケアを支援する看護について再考するとともに、高齢者と家族へのヘルスケア提供モデルについて探究する。

2. 教育目標

- 1) 複雑な健康問題をもつ高齢者とその家族について、総合的なアセスメントに基づいて判断できる能力を養う。
- 2) 高齢者とその家族の健康レベルに応じた看護援助の実際を学ぶ。
- 3) コンフォート理論の高齢者看護実践への適用の実際と可能性について探究する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

- 1) 講義、学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。
- 2) 関連文献をレビューしたレポートをもとにプレゼンテーションを行い、最新の研究・実践の動向を踏まえた討論を展開する。

【評価】

プレゼンテーション内容、討論での取り組みと貢献度等により総合的に評価する。

4. 使用テキスト、参考文献等

テキストは指定しない。参考文献等を適宜提示する。

【参考文献】

- 1) 上田敏：ICF（国際生活機能分類）の理解と活用、きょうされん、2005.
- 2) 大川弥生：介護保険サービスとリハビリテーション－ICFに立った自立支援の理念と技法－、中央法規、2004.
- 3) キャサリン・コルカバ：コルカバ コンフォート理論、医学書院、2008.
- 4) 泉キヨ子：エビデンスに基づく転倒・転落予防、中山書店、2005.

5. 教育内容

回	内 容	講師
1	高齢者特有の健康問題と生活機能障害 ・老年病の特徴 ・老年症候群	原
2		
3	国際生活機能分類（ICF）の視点に基づくアセスメントと看護	原
4	・ICF モデルの基本的特徴、実践的意義、今後の課題 ・低運動による弊害（廃用症候群）の予防・克服の具体的な進め方 ・目標指向的アプローチ	
5		
6	高齢者/家族へのヘルスケア提供モデル：コンフォート理論	加藤
7	・高齢者看護におけるケアの枠組みとコンフォートの概念 ・コンフォート理論の高齢者ヘルスケア実践への適用	
8	・看護師/ヘルスケア提供者のコンフォートに焦点をあてたモデルの分析 ・コンフォート理論を活用した高齢者/家族ケアの展開 (事例検討)	
9		
10	ICF の視点に基づく目標指向的アプローチの実際（事例検討）	原
11		
12	高齢者リハビリテーション看護学 ・概念と原理、新しい障害モデル	泉
13	・高齢者特有のニーズの査定	
14	高齢者の転倒予防と看護の視点 ・転倒リスクアセスメントツールの活用と転倒予防ケア	泉
15	高齢者看護の実践的課題と展望	原

高齢者看護援助論

単位数：2単位

原 祥子：地域・老年看護学講座教授
加藤 真紀：地域・老年看護学講座准教授
吉岡佐知子：松江市立病院地域医療課長（老人看護 CNS）
島根大学医学部臨床看護教授
塩川 ゆり：訪問看護ステーションあおいそら管理者

1. 科目の教育方針

老人看護専門看護師に求められる、病院・施設における高齢者とその家族に対する卓越した看護の実践、看護職に対する教育、看護職を含むケア提供者に対する相談、ケア調整、倫理的調整の各役割機能を果たすことのできる能力を開発する。

2. 教育目標

- 1) 病院・施設において複雑な健康問題をもつ高齢者とその家族について、生活環境調整・生活活動調整・家族関係の調整に関する看護援助を実践する能力を養う。
- 2) 高齢者ケアが円滑に提供されるための、ケア提供者に対する教育・相談や関係者間の調整の実際を学ぶ。
- 3) 高齢者のエンドオブライフ・ケアのあり方について探究する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

講義、学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。

【評価】

プレゼンテーション内容、討論での取り組みと貢献度等により総合的に評価する。

4. 使用テキスト、参考文献等

テキストは指定しない。参考文献等を適宜提示する。

【参考文献】

- 1) 井部俊子、大生定義監修：専門看護師の思考と実践、医学書院、2015.
- 2) 金川克子、野口美和子監修：高齢者のための高度専門看護（最新・高齢者看護プラクティス）、中央法規、2005.
- 3) 中島紀恵子、石垣和子監修：高齢者の生活機能再獲得のためのケアプロトコールー連携と協働のために、日本看護協会出版会、2010.
- 4) 桑田美代子、湯浅美千代編集：高齢者のエンドオブライフ・ケア実践ガイドブック第1巻死を見据えた日常生活のケア、中央法規、2016.
- 5) 桑田美代子、湯浅美千代編集：高齢者のエンドオブライフ・ケア実践ガイドブック第2巻死を見据えたケア管理技術、中央法規、2016.

5. 教育内容

回	内 容	講師
1	専門看護師制度設立の背景と専門看護師の要件	原
2	老人看護専門看護師の役割と機能、活動の拡大 エビデンスに基づく実践（EBP）の実行	原
3	病院・施設における CGA とチームアプローチ ・高齢者の摂食・嚥下の評価とリハビリテーション ・高齢者のフレイル(frailty)とサルコペニアへのアプローチ	原 (リハビリテーション部・酒井)
4		
5	病院・施設における生活環境・生活活動調整に関する実践・相談・教育 ・せん妄の予防と対応を含む	吉岡
6	病院・施設における家族関係の調整に関する実践・相談・教育	吉岡
7	高齢者看護における倫理的課題と倫理調整	吉岡
8	複雑な健康問題をもつ高齢者/家族に対する看護実践とケア調整	吉岡
9	地域連携・退院支援を通して高齢者のケアを考える ・高齢者/家族に対する調整・倫理調整を中心に	塩川
10		
11	終末期にある高齢者とその家族への看護援助（1） ・End-of-Life Care の概念、終末期ケアを導くチーム連携ケアモデル	原
12	終末期にある高齢者とその家族への看護援助(2) ・介護保険施設における End-of-Life Care の実践・相談・教育 ・高齢者の End-of-Life Care における倫理調整 ・高齢者の看取りケアモデルの探究(文献及び事例検討)	加藤
13		
14		
15	高齢者看護における実践的研究の動向と課題	原

認知症看護論

単位数：2単位

原 祥子：地域・老年看護学講座教授
浦上 克哉：鳥取大学医学部保健学科生体制御学講座教授
吉岡佐知子：松江市立病院地域医療課長（老人看護 CNS）
島根大学医学部臨床看護教授

1. 科目の教育方針

認知症高齢者とその家族の生活環境や生活活動の調整、家族関係の調整のための具体的援助、それらに関する看護職への教育、看護職を含むケア提供者に対する相談、保健医療福祉ニーズのケア調整、倫理的課題への調整の機能を果たすことのできる能力を開発する。

2. 教育目標

- 1) 認知症の診断（評価）と病態像及び障害像、最新の治療について理解する。
- 2) 認知症の人の障害像から生活に及ぼす影響について適切に判断できる能力を養う。
- 3) 認知症の種類、症状、経過にそった、生活環境調整・生活活動調整・家族関係の調整に関する看護援助に関する理論と実際を学ぶ。
- 4) 認知症高齢者ケアにかかわるスタッフへの教育・相談の実際を学ぶ。
- 5) 認知症高齢者とその家族に対する資源の活用の実際を学ぶ。
- 6) 認知症高齢者の人権擁護と倫理的調整の実際を学ぶ。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】講義、学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。

【評価】プレゼンテーション内容、討論での取り組みと貢献度、課題レポート（テーマ：認知症看護をめぐる課題・背景要因・課題解決のための方略の提言）等により総合的に評価する。

4. 使用テキスト、参考文献等

テキストは指定しない。参考文献等を適宜提示する。

【参考文献】

- 1) 小澤勲：認知症とは何か、岩波書店、2005.
- 2) 池田学：認知症、中公新書、2010.
- 3) クリストイーン・ボーデン：私は誰になっていくの？、クリエイツかもがわ、2003.
- 4) 浦上克哉：これでわかる認知症診療（改訂第2版）、南江堂、2012.
- 5) トム・キッド ウッド（高橋誠一訳）：認知症のパーソンセンタードケア、筒井書房、2005.
- 6) 中島紀恵子監修・編集：認知症の人びとの看護（第3版）、医歯薬出版、2017.
- 7) 児玉桂子、他編：痴呆性高齢者が安心できるケア環境づくり、彰国社、2003.
- 8) Jacqueline Kindell（金子芳洋訳）：認知症と食べる障害、医歯薬出版、2005.
- 9) ピッキー・デ・クラーク・リボン：認知症ケアのバリデーション・テクニック、筒井書房、2009.
- 10) 日本神経学会監修：認知症疾患治療ガイドライン2010 コンパクト版 2012, 医学書院, 2012.

5. 教育内容

回	内 容	講師
1	認知症の概念と定義 認知症とともに生きる人の理解	原
2	認知症高齢者看護の専門性と役割	原
3	認知症をきたす疾患への理解	浦上
4	認知症の治療と今後の展望	浦上
5	認知症高齢者のアセスメントと看護援助 ・生活環境・生活活動の調整	原
6	・認知症高齢者に対するアクティビティケアの理念と実際 (回想法、ライフストーリー・アプローチ、リアリティ・オリエンテーションを含む)	
7	パーソンセンタードケアの理論と実践 *講義と討論 ・「その人らしさ」の概念、理論の背景	原
8	・パーソンセンタード・アプローチの展望と評価 ・認知症ケアにおける課題：相互行為の質の改善 ・パーソンセンタードケアを実践するための組織上の課題 ・職員のケアと教育、チーム作り	
9	認知症ケアにおけるアセスメントとケアマネジメント ・認知症の人のためのケアマネジメントセンター方式 ・グループホーム・在宅における認知症ケアの実際と質評価	原
10	認知症ケアと薬物療法	原
11	認知症者に対する療法プロトコルやアプローチ・アクティビティケアの理念と実際 (回想法(ライフレビュー)、バリテーション・テクニック、園芸療法、アートセラピーなど) *療法プロトコル等から1つを選択、文献(実践報告を含む)検討のうえプレゼンテーション	原
12	認知症高齢者的人権と生活を支える制度、適切な資源の活用 事例検討 *討論	原
13	認知症高齢者ケアにおける老人看護 CNS の実践・相談・教育の実際 ・生活環境と生活活動の調整	吉岡
14	・認知症高齢者の介護家族支援と家族関係の調整	
15	認知症高齢者ケアにおける倫理調整の実際 ・認知症ターミナルケアの倫理的課題を含む	吉岡

高齢者在宅ケアシステム論

単位数：2単位

原 祥子：地域・老年看護学講座教授
谷垣静子：岡山大学大学院保健学研究科教授
高山成子：金城大学看護学部教授
三輪恭子：よどきり医療と介護のまちづくり株式会社 取締役
まちケア事業部 部長（地域看護 CNS）

1. 科目の教育方針

高齢者・在宅療養者の健康生活をサポートしているケアシステムの現状を理解し、それらを活用するための理論と実際を学ぶ。また、専門的知識と理論に基づいて高齢者のサポートシステムを組織化する方法を修得し、サポートシステムを発展させることのできる能力を開発する。

2. 教育目標

- 1) 高齢者サポートシステム及び在宅ケアシステムの現状について理解できる。
- 2) ケアマネジメント実践の基礎的知識と理論に基づいたケアプラン立案と実施・評価までの一連の実践方法を学ぶ。
- 3) 高齢者・在宅ケアにおける連携システムづくりについて考察できる。
- 4) 病院・施設と在宅をつなぐ専門看護師の機能について理解できる。
- 5) 高齢者のサポートシステムを発展させる方法について考察できる。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

講義、学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。

【評価】

プレゼンテーション内容、討論での取り組みと貢献度、課題レポート等により総合的に評価する。

4. 使用テキスト、参考文献等

テキストは指定しない。参考文献等を適宜提示する。

【参考文献】

- 1) 宇都宮宏子、三輪恭子編：これからの退院支援・退院調整、日本看護協会出版会、2011.

5. 教育内容

回	内 容	講師
1	地域ケアシステムと社会資源（概論） 身体・知的・精神の三障害とサービス体系 セルフヘルプグループ及びソーシャルサポートの理論と実際	谷垣
2	高齢者を取り巻く状況と高齢者サポートシステム わが国における地域包括ケアシステムと諸外国の状況	谷垣
3	ケアマネジメントの実践と理論 歴史的経緯と発展過程、ケアマネジメントの定義	原
	構成要素と展開のプロセス	
5	介護保険制度とケアマネジメント 介護保険制度改革の概要	原
	要介護認定の理論的根拠、介護ニーズの客観的評価	
7	インフォーマルサポートの種類・機能とその活用 インフォーマルサポート・ネットワークの現状と課題	原
8	高齢者・在宅ケアにおける連携とチームアプローチ 超高齢社会における地域包括ケアシステムの構築と多職種連携・協働	原
9	高齢者の健康と生活を支えるための社会資源とサポートシステム	高山
	認知症高齢者に焦点をあてて	
11		
12	病院・施設と在宅をつなぐ専門看護師の機能 高齢者の在宅移行および在宅療養継続におけるアプローチ	三輪
	退院支援の実際、事例検討	
13	サポートシステムの組織化とその活用のあり方 チーム医療と Interprofessional Work (IPW)	
15	高齢者のサポートシステムを発展させる方法	原

家族看護援助論

単位数：2単位

矢田 昭子：臨床看護学講座教授

鈴木志津枝：神戸市看護大学

療養生活看護学領域教授

1. 科目の教育方針

今日、「家族看護」はこれまでにない様々な領域で専門的な援助の実践が求められるようになっている。CNSをはじめとする大学院修了者には、高度看護実践者として、理論に基づいた専門性の高い看護を実践することによって、看護の成果を社会の人々や保健医療チームのメンバーに示し、看護の発展に寄与することが期待されている。

本科目では家族看護の実践力を高め、家族の健康問題におけるコンサルテーションの基礎的能力を習得できるよう、主たる家族看護理論から実践までの理解をねらいとする。具体的な援助方法については事例を通して学び、関連する他機関や専門職種との連携につなげられる看護実践能力の習得を目指す。

2. 教育目標

- 1) 家族看護の歴史的展望に基づき、諸外国及びわが国での家族看護の発展経緯を理解できる。
- 2) 看護における家族の位置づけや家族を単位とした看護アプローチのあり方を自己の家族観をふまえて洞察し、中立的な立場での看護介入について理解できる。
- 3) 主要な家族看護の理論を学び、実践事例への応用から家族看護計画が理解できる。
- 4) 家族看護の実践力に必要な教育内容や実践を評価する手法について理解できる。
- 5) 家族看護に関わる専門職種や機関を知り、看護職に必要な連携・調整機能について理解する。
- 6) 健康問題別、発達別、終末期のアセスメントにおける家族看護の実践に必要な知識・技術が理解できる。

3. 教育の方法、進め方、評価等

講義、事例検討を通して実際の家族看護に触れながら、家族看護計画の立案・実践・評価までをシミュレーションする。学生間の意見交換を通して現状の課題を取り上げ、討議により深めていく。

授業への参加度、課題レポート等より評価を行う。

4. 参考図書、参考文献等

- 1) 鈴木和子、渡辺裕子：家族看護学－理論と実践 第4版、日本看護協会出版会、2012.
- 2) 法橋尚宏：新しい家族看護学－理論・実践・研究、メヂカルフレンド社、2010.
- 3) 小島操子：看護における危機理論・危機介入3版－フィンク/コーン/アギレラ/ムース/家族の危機モデルから学ぶ、金芳堂、2013.

5. 教育内容

回		内 容	講師
1	10/10	家族看護の歴史的発展と経緯 諸外国とわが国との比較	矢田
2	10/17	家族の発達と周期 ライフサイクルから捉えた家族	矢田
3	10/24	家族の危機とストレス対処モデル	矢田
4	集中講義	家族エンパワーメントモデル	鈴木
5		家族エンパワーメントモデルを活用した事例展開 終末期患者の家族への援助（高齢者の事例を用いて）	鈴木
6		Enrichment の概念の活用 終末期患者・家族間の相互性を支える援助	鈴木
7		悲嘆理論と死別後の遺族へのグリーフケア	鈴木
8	10/31	家族システム理論	
9	11/7	家族生活力量モデルの活用 (高齢者の事例を中心に)	矢田
10	11/14	渡辺式家族アセスメントモデルの活用 (高齢者の事例を中心に)	矢田
11	11/21	家族看護アセスメントモデルを活用した事例展開 (高齢者の事例を用いて)	矢田
12	11/28		
13	12/5		
14	12/12		
15	12/19		

※嘱託講師については集中講義を行う　日時は未定

看護理論

単位数：2単位

福間 美紀：基礎看護学講座准教授

内田 宏美：基礎看護学講座教授

津本 優子：基礎看護学講座教授

長田 京子：元島根大学医学部看護学科教授

1. 科目の教育方針

実践の科学である看護学の基礎をつくるものは理論である。看護現象を説明し理論を生成すること、理論を実践に活用してその妥当性を検証すること、この繰り返しによって看護は看護学として発展し、社会の健康ニーズに応え得る質の高い看護を展開することができる。CNSをはじめとする大学院修了者には、高度看護実践者として、理論に基づいた専門性の高い看護を実践することによって、看護の成果を社会の人々や保健医療チームのメンバーに示し、看護の発展に寄与することが期待されている。

本科目では、看護理論に関する基本的知識、および看護実践への理論の活用方法とその効果の評価方法について学習し、理論と実践の融合した質の高い看護サービスを提供するために必要な論理的思考力と実践力を高める。

2. 教育目標

- 1) 看護理論開発の歴史を概観し、これからの看護理論の発達に対する見識を深める。
- 2) 看護理論家の著書を講読し、理論の分析を行って看護理論の構造や特徴を理解する。
- 3) どのような対象者にどのような場面や状況下で看護理論を適用させるのか、事例をとおして看護理論の看護実践への活用方法を検討する。
- 4) 看護実践における理論活用の意義と理論開発の必要性を考察する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

- 1) 看護理論への理解を深めるために、講義、看護理論講読、事例演習を行う。
- 2) 理論分析は、看護哲学、広範囲理論、中範囲理論に関する看護理論の著書の中から各自が1冊を選択して講読し、レポートの作成、発表、グループ・ディスカッションを行う。
- 3) 看護理論活用の実際は、各自の専門領域に応じて関心を寄せる看護の理論を選択して看護実践に活用し、その成果について発表とディスカッションを行う。

【評価】

プレゼンテーション、レポート等により総合的に評価する。

4. 使用テキスト

- 1) 筒井真由美編集：看護理論家の業績と理論評価、医学書院、2015
- 2) 正木治恵他：看護理論の活用-看護実践の問題解決のために、医歯薬出版、2012
- 3) ヘンダーソン著：看護の基本となるもの、日本看護協会出版会、2007

＜参考文献等＞

筒井真優美編集：看護理論、看護理論20の理解と実践への応用、南江堂、2008

松木光子他編集：看護理論、理論と実践のリンクエージ、ヌーヴェルヒロカワ、2006

* その他の図書・文献は授業で紹介する。

5. 教育内容

回	月/日	内 容	講師
1	4/11	講義： 理論の定義・意義、看護理論発展の歴史、 看護実践の基盤となる看護理論の特徴と機能の概要	福間
2	4/18	講義： 看護理論の構造および特徴 看護の主要概念（人間、健康、環境/社会、看護の目的・方法）	福間
3	4/25	講義： 概念分析、理論の構造と特徴（ヘンダーソンの看護理論を用いて） 課題の提示（ステップ1）	福間
4	5/9	グループディスカッション： 看護理論の活用の実際（ステップ1）課題の明確化	内田 福間
5	5/16	グループディスカッション： 看護理論の活用の実際（ステップ1）課題の明確化	津本 福間
6	5/23	講義： 看護理論を用いた事例分析（ヘンダーソンの看護理論を用いて）	福間
7	6/6	発表・討議（ステップ2） 理論分析1 看護理論の構造・特徴の分析・クリティーケ 課題解決に向けての事例分析・実践に向けての方向付け	福間
8	6/13	理論分析2 看護理論の構造・特徴の分析・クリティーケ 課題解決に向けての事例分析・実践に向けての方向付け	福間
9	6/20	理論分析3 看護理論の構造・特徴の分析・クリティーケ 課題解決に向けての事例分析・実践に向けての方向付け	福間
10	6/27	理論分析4 看護理論の構造・特徴の分析・クリティーケ 課題解決に向けての事例分析・実践に向けての方向付け	福間
11	7/4	発表・討議 看護理論の活用の実際（ステップ3） 課題解決の実践と効果の評価	福間
12	7/11	看護理論の活用の実際（ステップ2） 課題解決の実践と効果の評価	福間
13	7/18	看護理論の活用の実際（ステップ3） 課題解決の実践と効果の評価	福間
14	7/25	看護理論の活用の実際（ステップ3） 課題解決の実践と効果の評価	福間
15	8/1	まとめ：看護学における看護理論、看護理論の動向と方向性	長田

看護倫理

単位数：2単位

内田宏美：基礎看護学講座教授

清水哲郎：岩手保健医療大学学長

1. 科目の教育方針

看護倫理の中心課題は、現代の保健医療システムの中でケアはいかにあるべきかを探ることであり、専門職の責務として倫理的問題やジレンマを解決していくための方法を探求することである。CNS をはじめ大学院修了者には、看護実践の場で現に発生している、あるいは潜在的な倫理的問題に対して、メンバーが主体的に対峙し、問題の本質を分析し、より良い解決に向けて対策を講じることができるよう、調整や支援を行うことが期待されている。本科目では、基盤となる倫理・哲学の思想、生命倫理、医療倫理に関する基本的知識を学習して多面的なものの見方考え方を身につけること、それを基盤にして看護実践・教育・研究・管理のあらゆる領域における倫理的問題とは何かを洞察できるようになること、さらには、現実的な問題の分析と対策の検討をとおして、倫理的判断力や問題解決能力を高めることを目指す。

2. 教育目標

- 1) 倫理・哲学の思想、生命倫理、医療倫理に関する基本的知識を深める。
- 2) 看護実践における倫理の基本概念を理解する。
- 3) 看護の臨床で経験する倫理的ジレンマ・道徳的苦悩に対し、状況対応型解決法の適用を試み、その効果と課題を明らかにすることができる。
- 4) 倫理的課題に対応する基盤としての組織文化・組織風土の重要性を理解し、現実の課題に向き合うことができる。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

基本テキスト、参考文献等により、課題に関する事前学習を行い、疑問や問題意識を持って授業に臨むことを前提とし、実例を題材にして全員でディスカッションを行い、テーマに対する見識を深める。

【評価】課題レポート等により総合的に評価する。

4. テキスト

- 1) サラ・フライ（片田範子訳）『看護実践の倫理』日本看護協会出版会
- 2) ドロレス・デューリー他『看護倫理 1』みすず書房、2006
- 3) ジョイス E.トンプソン他『看護倫理のための意思決定の 10 のステップ』日本看護協会出版会、2004

【参考文献】

- 1) 清水哲郎『臨床現場に臨む哲学』勁草書房、1997
- 2) ドロレス・デューリー他『看護倫理 2, 3』みすず書房、2006
- 3) ダニエル F. チャンブリス(浅野祐子訳)『ケアの向こう側』日本看護協会出版会
- 4) スザンヌ・ゴードン『困難に立ち向かう看護』エルゼビア・ジャパン、2006

5. 教育内容

※前期（木）7・8 時限 14:30～16:00

回	月/日	内 容	講師
1	4/20	保健医療における倫理的問題と背景 ・医療化の進展による諸問題、生命の質、平等と公平 医療・ケアにおける患者・クライエントの権利 ・人間性の尊重、知る権利と自己決定権 看護の基本的責任、看護実践上の倫理的概念 ・責務・アドボカシー・協力・ケアリング、倫理指針	内田
2	4/27	看護実践における倫理的ジレンマとその本質 ・医療倫理と看護倫理、倫理的ジレンマと道徳的苦悩 看護管理・看護教育・研究における倫理 ・組織の中で構造的に生み出されるジレンマと対応 ・パターナリズムを超えて	内田
3	5/11	基礎文献講読：サラ・フライ「看護実践の倫理」 ・担当分の内容をレジュメにまとめ発表する。 ・ディスカッションにより考察を深める。	内田
4	5/11 16:15～ 17:45	基礎文献講読：サラ・フライ「看護実践の倫理」 ・担当分の内容をレジュメにまとめ発表する。 ・ディスカッションにより考察を深める。	内田
5	5/25	基礎文献講読：D. デューリー他「看護倫理 1」 ・担当分の内容をレジュメにまとめ発表する。 ・ディスカッションにより考察を深める。	内田
6	6/1	基礎文献講読：D. デューリー他「看護倫理 1」 ・担当分の内容をレジュメにまとめ発表する。 ・ディスカッションにより考察を深める。	内田
7	6/8	基礎文献講読 ：J. トンプソン「看護倫理のための意思決定の 10 のステップ」 ・担当分の内容をレジュメにまとめ発表する。 ・ディスカッションにより考察を深める。	内田
8	6/15	倫理的ジレンマへの対応の検討：事例検討 ：看護専門職として倫理的問題にどう向き合うか	内田
9	6/22	同上	内田
10	6/29	同上	内田
11	7/6	同上	内田
12	7/13	同上	内田
13	<u>7/20(木)</u>	公開 特別講演 “臨床現場に臨む哲学”	清水
14	<u>13:30～</u>	～患者の死生に寄り添える医療者であるために～	
15	<u>18:15</u>	・インフォームド・コンセント再考：高齢者の意思決定を支える ・「臨床倫理検討シート」の活用	
		課題レポート：〆切 7/28(金) テーマ：看護職者の倫理的責務	内田

コンサルテーション論

単位数：2単位

内田 宏美：基礎看護学講座教授
宇佐美しおり：熊本大学医学部保健学科教授
長田 京子：元基礎看護学講座教授
鶴屋 邦江：川崎病院老人看護 CNS

1. 科目の教育方針

人々の健康生活を支える看護活動を効果的に展開するには、保健・医療・福祉の分野や組織の部門・部署を超えて、継続的で柔軟なケアのネットワークを構築していくことが重要となる。コンサルテーションは、ケアのネットワーク構築を推進するうえで重要な機能を果たす。CNS をはじめとする大学院修了者には、専門分野の高度な看護実践に関する相談・支援活動を展開することはもとより、ヘルスケア組織全体の看護の質向上のために、各機能間の協働と連携の調整者として、リーダーシップを発揮することが期待されている。

本科目ではコンサルテーションの理論と方法について学習し、看護職をはじめとする保健・医療・福祉領域の専門家に対する相談・支援・調整活動を行うための能力を養う。

2. 教育目標

- 1) 保健・医療・福祉領域のケア提供者の職務遂行上の問題解決過程における相談・支援活動の目的と方法について理解する。
- 2) コンサルテーションの理論を学び、その概念、モデル、タイプ、プロセス、コンサルタントの役割、および活動の方法について理解する。
- 3) 職員のメンタルヘルスに関するコンサルテーションに必要な諸理論と職場におけるストレスマネジメントの具体的方法を理解する。
- 4) 看護実践に関するコンサルテーションについて、個人、集団、組織に対するコンサルテーションの具体的方法を理解する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

- 1) コンサルテーションに関する理論、知識、方法について、講義、演習、ロールプレー等をとおして理解を深める。
- 2) コンサルテーション事例について、プレゼンテーションとディスカッションによる演習を行う。

【評価】

評価は、授業への主体的参加、プレゼンテーション、レポート等により総合的に行う。

4. 使用テキスト、参考文献等（*その他の図書・文献は授業で紹介する。）

- 1) 宇佐美しおり、野末聖香編：精神看護スペシャリストに必要な理論と技法、日本看護協会出版会、2009.
- 2) ドナ C. アギュラ著、小松源助他訳：危機介入の理論と実際、川島書店、1997.
- 3) エドガー・H・シャイン著、金井壽宏監訳：問い合わせる技術、英治出版、2014.

5. 教育内容

後期木曜日 16:15~17:45

回	月/日	内 容	講師
1	10/19	コンサルテーションの概念 コンサルテーションの歴史的発展、定義、目的 コンサルティとコンサルタントの関係 コンサルテーションのプロセス、コンサルタントの役割	内田
2		看護におけるコンサルテーションの実際 コンサルテーションのタイプとモデル	宇佐美
3	集中 10/22 (日)	個人へのコンサルテーション 1	宇佐美
4	9:00~ 16:00	個人へのコンサルテーション 2	宇佐美
5		グループへのコンサルテーション	宇佐美
6	11/2	コンサルテーションの理論 ・文献購読	内田
7	11/9	コンサルテーションの理論 ・文献購読	内田
8	集中 11/11 (土)	コンサルテーションの実際 ・老人看護 CNS の活動の方法、戦略、課題	鶴屋
9	13:00~ 16:00		
8	11/16	コンサルテーションの理論 ・文献購読：エドガー・H・シャイン「問い合わせる技術」	内田
9	11/30	コンサルテーションの理論 ・文献購読：エドガー・H・シャイン「問い合わせる技術」	内田
13	12/7	コンサルテーション展開演習 ：ストレスマネジメントに関するコンサルテーション	長田
14	12/14	コンサルテーション展開演習 ：看護職としての成長支援に関するコンサルテーション	長田
15	12/21	コンサルテーション展開演習 ：看護職としての成長支援に関するコンサルテーション	長田
		課題レポート「コンサルテーション事例の検討」 締切：2018.1.9（火）正午、提出：uchi@med.shimane-u.ac.jp	内田

看護研究方法演習

単位数：2単位(60時間)

津本優子：基礎看護学講座教授
橋本龍樹：臨床看護学講座教授
小林裕太：特任教授
秋鹿都子：臨床看護学講座准教授

内田宏美：基礎看護学講座教授
小笛美子：地域・老年看護学講座教授
福間美紀：基礎看護学講座准教授

1. 科目の教育方針

看護実践の経験知を可視化し、看護の学問的発展を支えるのが看護研究である。緻密な看護研究により、看護実践の意味が論理的に説明され、質の高い看護実践のための新たな知見が創造され、やがて看護学としての理論的体系化に至る。看護研究を行うことは、看護専門職としての責務である。看護研究の課題は、実践・教育・管理など自己の看護活動の問題意識に根差した、具体的で現実的なものであることが重要である。

本科目では、現実的な問題意識に端を発して、その疑問や問題を研究的に解明し検証していくための科学的方法を学ぶ。CNS をはじめとする大学院修了者には、高度な看護実践者として看護の質向上に寄与することが期待されている。したがって、本科目での学習を看護学特別研究へと繋ぐことにより、看護研究を自律して実施する能力、研究の成果を看護実践に活用し、評価する能力の獲得を目指す。

2. 教育目標

- 1) 看護研究の目的と意義を理解する。学習と研究の相違、問題解決過程と研究過程の相違をふまえ、看護研究のプロセスを理解する。
- 2) 文献をクリティックして質の高い研究論文を活用する方法を理解する。
- 3) 研究デザインおよび主な研究方法の看護研究への適用について理解する。
- 4) 看護研究における倫理的配慮の重要性と具体的方法を理解する。
- 5) 量的研究のデータ分析に必要な基本的な統計解析の方法を理解する。
- 6) 質的研究のデータ分析に必要な質的帰納的アプローチの方法を理解する。
- 7) 研究計画の全体像を構造化できる。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】演習方式で行う。

【評価】演習でのディスカッション、発表内容、課題レポートの内容等により、総合的に判断する。

4. 基本テキスト

- 1) DFボーリット他/近藤潤子監訳：看護研究 原理と方法（第2版），医学書院，2010
- 2) 石井京子、田尾清子著：ナースのための質問紙調査とデータ分析，医学書院，2002
- 3) グレッグ美鈴、他著：よくわかる質的研究の進め方・まとめ方，医歯薬出版，2007

【参考テキスト・資料】

- 1) 日本看護協会：看護研究における倫理指針，2004
- 2) 文部科学省・厚生労働省：疫学研究における倫理指針 2005

5. 教育内容

※ 前期（木）9・10・11・12時限 16:15～19:30

コマ	月/日	内 容	講師
1・2	4/13 14:30 ～ 18:00	看護学研究概説：看護学の発展と看護研究・問題解決から研究へ ・看護現象の概念化と看護研究のデザイン ・主な研究方法の特徴と看護研究への適用	津本
		研究における文献検討の意義と活用 ・文献検索法	
3・4	4/20	研究における文献検討の意義と活用 ・文献クリティックの方法　・文献の活用	福間
5・6	4/27	疫学研究総論　：横断研究と縦断研究、コホート研究	橋本
7・8	5/18 14:30 ～ 19:30	文献検索の実際　：附属図書館における演習	図書館
		実験研究 ：プロトコールの作成方法及び結果の分析・解析の理論的方法	
9・10	5/25	量的研究(1) 研究デザイン：方法の特徴、限界	津本
11・12	6/1	量的研究(2) データ収集：サンプリング・質問紙作成・分析準備	津本 福間
13・14	6/8	量的研究(3) データ分析①：データの要約	津本 福間
15・16	6/15	量的研究(4) データ分析②：2変量の解析	津本 福間
17・18	6/22	量的研究(5) データ分析③：多変量の解析	津本 福間
19・20	6/29	質的研究(1) 研究デザイン：方法の特徴、限界 (サンプリング、データの算出、コード化、カテゴリ化等)	小笠 秋鹿
21・22	7/6	質的研究(2)：質的帰納的アプローチ ① 質的記述的研究	小笠 秋鹿
23・24	7/13	質的研究(3)：質的帰納的アプローチ ② グラウンデッド・セオリー	小笠 秋鹿
25・26	7/20	質的研究(4)：質的帰納的アプローチ ③ エスノグラフィー、内容分析	小笠 秋鹿
27・28	7/27	質的研究(5)：質的帰納的アプローチ ④ データ表示、結果の厳密性	小笠 秋鹿
29・30	8/3	臨床看護研究の新たな展開 ：アクションリサーチの看護への貢献の可能性	内田
		看護研究における倫理的問題、人権侵害予防のための倫理的配慮 研究計画の立案と看護研究倫理審査申請への準備	

看護学特別研究

単位数：8 単位

* 看護援助学コース（担当：未定）

看護実践または看護教育の分野から対人援助関係や看護技術など看護援助に関する研究課題を見出して探求し、その成果を論文にまとめて発表する。

* 看護管理学コース（担当：内田宏美教授、小林裕太特任教授、津本優子教授、福間美紀准教授）

自己の看護専門職としての関心、及び、特論及び演習で学んだことを基盤に、看護管理に関する研究課題を見出して研究を実施し、その結果を論文にまとめる。

* 地域・在宅看護学コース（担当：小笹美子教授）

地域で生活する人々の健康と生活を支援する看護に関する研究課題を見いだし、研究論文を作成する。

* 母子看護学コース（担当：福田誠司教授）

小児・母性の健全な成長・発達を支えるための看護支援の方法について分析し、看護の科学的根拠を見い出して成果を論文にまとめる。

* 成人（急性・慢性）看護学コース（担当：矢田昭子教授、橋本龍樹教授）

成人期の多様な健康状態や健康問題に対応するための看護を発展させるために、研究課題に基づいて研究を行い、論文を作成する。

* 高齢者看護学コース（担当：原 祥子教授）

高齢者の健康と生活を支える多様なケアサービスに関する課題を見出し、高齢者の健康生活の向上を目指した看護実践を追究し、論文を作成する。

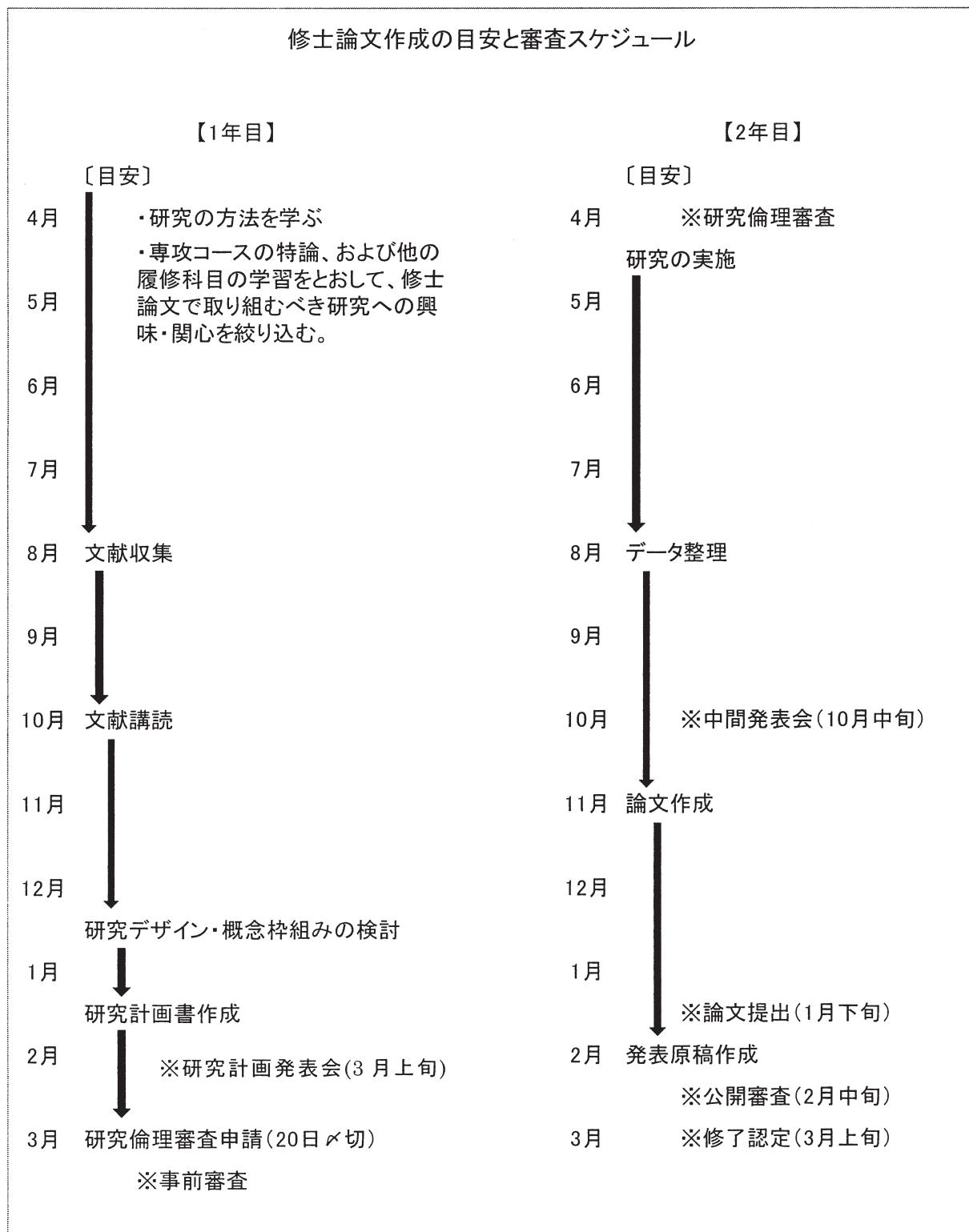
看護学課題研究

単位数：4 単位

* 老人看護CNSコース（担当：原 祥子教授）

高齢者看護学実習に関連のある特定の実践的課題を追究する。高齢者看護の現場における課題を明確にしたうえで、研究計画を立案し、その計画に従って研究を実施する。課題研究の成果は、修士論文として作成する。

修士論文作成の目安と審査スケジュール



平成29年度時間割(博士前期課程・博士後期課程(網掛けは関連科目))

前期

	1・2 時限 8:30～ 10:00	3・4 時限 10:15～ 11:45	5・6 時限 12:45～ 14:15	7・8 時限 14:30～ 16:00	9・10 時限 16:15～ 17:45	11・12 時限 18:00～19:30	13・14 時限 19:30～21:00
月						超高齢看護 開発特講 N502	安全ケア システム 開発特講 N502
火		看護理論 N502	高齢者 看護学特論 N502	母子看護学 特論 3F	母子フィジカル アセスメント 方法論 3F	看護管理学 特論 N502	
				成人(急性・ 慢性)看護学 特論 N404	重症者フィジカル アセスメント 方法論 N502	地域・在宅 看護学特論 N601	
水							
木			看護情報 管理論 1 研	看護倫理 N502	看護研究方法演習 N502、情報演習室		
高齢者看護 実践論 N502						研究方法 特講 N502	超高齢看護学 研究演習 N502
金							
土	土曜日等に嘱託講師の集中講義						
	講義日程についてはシラバス及び掲示で確認すること						

*2年次必修専門科目:「看護学特別研究」、「看護学課題研究」隨時

*「高齢者看護学実習」については別途指示

※「超高齢看護学研究演習」のフィールドワークは夏季休業中に行うことがある

※「超高齢看護学特別研究」は隨時

後期

	1・2 時限 8:30～ 10:00	3・4 時限 10:15～ 11:45	5・6 時限 12:45～ 14:15	7・8 時限 14:30～ 16:00	9・10 時限 16:15～ 17:45	11・12 時限 18:00～19:30	13・14 時限 19:30～21:00
月			高齢者在宅ケアシステム論 N502	高齢者看護援助論 N502		(コース別看護学演習)	
火			認知症看護論 N502	臨床薬理・薬剤学 N502	家族看護 援助論 N404	総合診療学 I セミナー室	総合診療学 II セミナー室
水						(コース別看護学演習)	
木			リスクマネジメント論 N502	看護人材育成論 N502	コンサルテーション論 N502	保健医療福祉政策論 N502	医学・医療情報学 I セミナー室
金						(コース別看護学演習)	
土	土曜日等に嘱託講師の集中講義 講義日程についてはシラバス及び掲示で確認すること						超高齢看護学研究演習 N502
	*2年次必修専門科目:「看護学特別研究」、「看護学課題研究」隨時 *「高齢者看護学実習」については別途指示 ※「超高齢看護学特別研究」は隨時 ※関連科目「地域がん治療学」「緩和ケア学」「臨床医学と社会・環境医学への高度情報学の応用」「知的財産と社会連携」「機能性物質・食品の医療応用と環境影響」は、土曜日等の集中講義(9月～3月) ※関連科目の授業は、状況によって時間割を変更することがあります。						

平成29年度 大学院医学系研究科看護学専攻 学年暦

月	行事等予定																												
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29
4月	日曜	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜	日曜	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜	日曜	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜	日曜	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜	日曜
5月	日曜	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜	日曜	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜	日曜	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜	日曜	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜	日曜
6月	日曜	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜	日曜	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜	日曜	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜	日曜	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜	日曜
7月	日曜	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜	日曜	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜	日曜	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜	日曜	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜	日曜
8月	日曜	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜	日曜	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜	日曜	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜	日曜	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜	日曜
9月	日曜	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜	日曜	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜	日曜	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜	日曜	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜	日曜
10月	日曜	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜	日曜	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜	日曜	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜	日曜	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜	日曜
11月	日曜	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜	日曜	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜	日曜	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜	日曜	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜	日曜
12月	日曜	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜	日曜	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜	日曜	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜	日曜	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜	日曜
1月	日曜	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜	日曜	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜	日曜	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜	日曜	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜	日曜
2月	日曜	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜	日曜	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜	日曜	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜	日曜	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜	日曜
3月	日曜	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜	日曜	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜	日曜	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜	日曜	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜	日曜

4日(火) 入学式 新入生オリエンテーション
12日(水)・18日(火) 学生定期健康診断(X線)
13日(木) 学生定期健康診断(内科)
19日(水) 学生定期健康診断(内科、耳鼻咽喉科、眼科)

10日(水)・16日(火) 学生定期健康診断(X線)
17日(水) 学生定期健康診断(内科、耳鼻咽喉科、眼科)

10日(火) 医学系研究科入学試験(第1次募集)
13日(金) 修士論文中間発表会

22日(月) 修士論文提出

6日(火) 修士論文発表会
10日(土) 医学系研究科入学試験(第2次募集)
23日(金) 修士論文最終提出

1日(水) 研究計画発表会(博士前期課程)
1日(水) 医学系研究科入学試験(第3次募集)
23日(金) 学位授与式